

平成22年度

保健活動のまとめ

大口町保健センター

大口町健康の町宣言

健康は、まちの財産であり、しあわせの源であります。

心身ともに健康であることは、町民すべての願いであり、活力あるまちづくりのうえで、最も大切なことでもあります。

私たち大口町民は、一人ひとりが健康でしあわせな、明るい活力ある大口町を築くため、ここに「健康の町」を宣言します。

- 1 スポーツやレクリエーションをとおして、健康なところとからだをつくります。
- 2 町民一人ひとりが調和のある、健康で豊かな家庭をつくります。
- 3 健康づくりを地域にひろめ、健康で豊かなまちをつくります。

目 次

1 大口町の概要

1	町の位置及び紹介	1
2	大口町医療機関等分布図	2
3	人口	2
4	人口動態統計年次推移	5
5	選択死因別死亡数・(人口10万対)年次推移	5
6	大口町組織図	8
7	保健センターの概要	9
8	保健活動の変遷	11

2 母子保健活動

1	母子保健事業の取り組み	15
2	母子健康手帳の交付・妊婦相談	15
3	妊婦・乳児健康診査	16
4	一般不妊治療費助成事業	17
5	フレッシュママの会	17
6	低体重児の状況	17
7	乳幼児健康診査	18
8	家庭訪問	21
9	子育て相談室	22
10	離乳食教室	23
11	たんぼぼ教室	24
12	子育て支援・他機関との連携	25

3 成人保健活動

1	成人保健の取り組み	28
2	健康手帳の交付	28
3	特定健診・特定保健指導	29
4	各種がん検診	32
5	住民(結核)検診	36
6	わかば健康診査	37
7	肝炎ウイルス検診	38
8	骨密度測定	39
9	健康教育	40
10	健康相談	43
11	介護予防事業	44

4 歯科保健活動

1	歯科保健事業の取り組み	45
2	幼児期歯科健康診査	45
3	フッ化物洗口説明会	47
4	妊婦歯科健康診査	47
5	歯の健康センター	48
6	わかば健康診査時歯科健診	48
7	歯周病予防健診	49
8	8020・9018運動 歯の健康コンクール	50
9	口腔機能向上事業	51

5 健康推進事業

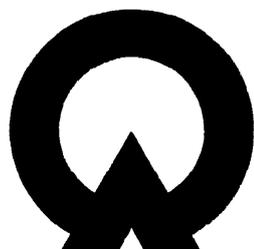
1	健康推進員活動	52
2	「健康おおぐち21」計画推進	57

6 感染症予防事業

1	予防接種	60
---	------	----

1 大口町の概要

1 町の位置及び紹介

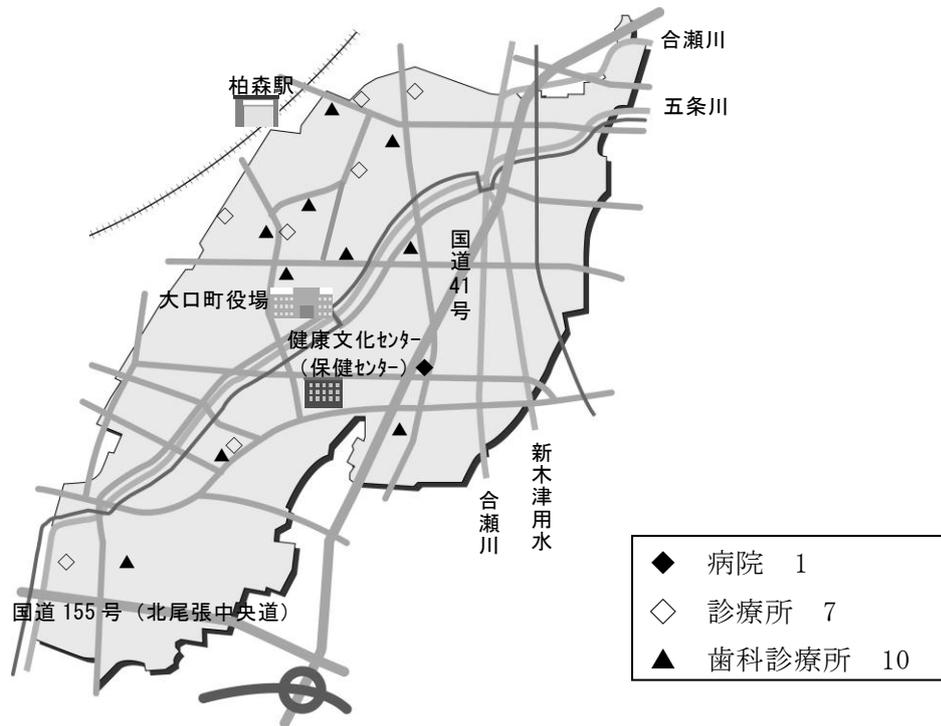


大口町は、愛知県の西北部にあり、犬山扇状地の東南部に位置しています。東西約 3.6 キロメートル、南北約 6.1 キロメートル、総面積 13.58 平方キロメートルです。北は扶桑町、北東は犬山市、北西から西は江南市、南から南東は小牧市に接しています。

名古屋市より直線距離にしてわずか 18 キロメートルの近郊地域に位置していますが、五条川をはじめとした恵まれた自然や田園地帯が広がることから、良好な環境を有する住宅地としての魅力が高まっています。

町中央部を国道 41 号線が南北に走るとともに、周辺には東名高速道路、名神高速道路、中央自動車道、名古屋都市高速道路がネットワークを形成しています。

2 大口町医療機関等分布図



3 人口

(1) 地区別世帯数 (単位: 世帯)

地区	区分	世帯
秋田		721
豊田		596
大屋敷		526
外坪		253
河北		502
余野		1,734
上小口		628
中小口		746
下小口		1,494
垣田		382
さつきヶ丘		316
合計		7,898

(2) 地区別人口 (単位: 人)

地区	区分	人口		
		男	女	総数
秋田		1,094	1,101	2,195
豊田		948	961	1,909
大屋敷		746	755	1,501
外坪		401	388	789
河北		782	801	1,583
余野		2,552	2,391	4,943
上小口		914	754	1,668
中小口		1,089	1,085	2,174
下小口		1,988	1,713	3,701
垣田		396	514	910
さつきヶ丘		415	411	826
合計		11,325	10,874	22,199

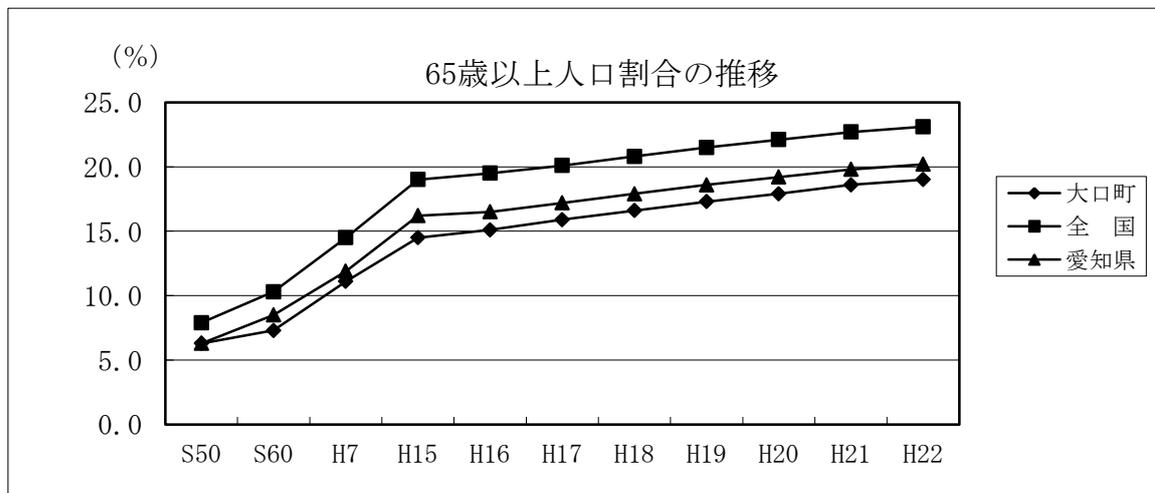
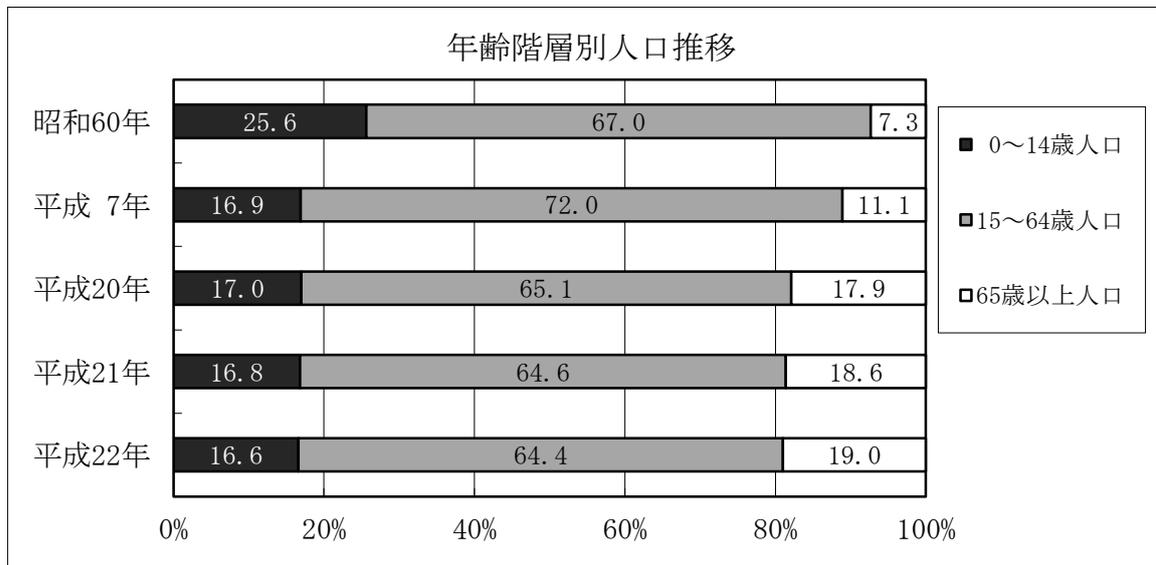
(平成22年10月1日現在 住民基本台帳より)

(3) 年齢階層別人口の推移

(単位 上段：人 下段：%)

		昭和50年	昭和60年	平成7年	平成20年	平成21年	平成22年
総人口		15,894	16,195	19,031	21,908	22,139	22,199
年齢階層区分	0～14歳人口	4,052	4,153	3,223	3,713	3,726	3,681
	比率	25.5	25.6	16.9	17.0	16.8	16.6
	15～64歳人口	10,840	10,852	13,702	14,267	14,297	14,290
	比率	68.2	67.0	72.0	65.1	64.6	64.4
	65歳以上人口	1,002	1,190	2,106	3,928	4,116	4,228
	比率	6.3	7.3	11.1	17.9	18.6	19.0
	40歳以上人口	4,466	5,216	8,648	10,750	10,978	11,183
	比率	28.1	32.2	45.4	49.1	49.6	50.4
	75歳以上	308	421	873	1,555	1,605	1,691
比率	1.9	2.6	4.6	7.1	7.2	7.6	
全国 65歳以上人口比率	7.9	10.3	14.5	22.1	22.7	23.1	
愛知県 65歳以上人口比率	6.3	8.5	11.9	19.2	19.8	20.2	

資料：全国・愛知県は、総務省統計局発表のもの。各年、10月1日の人口に基づく。



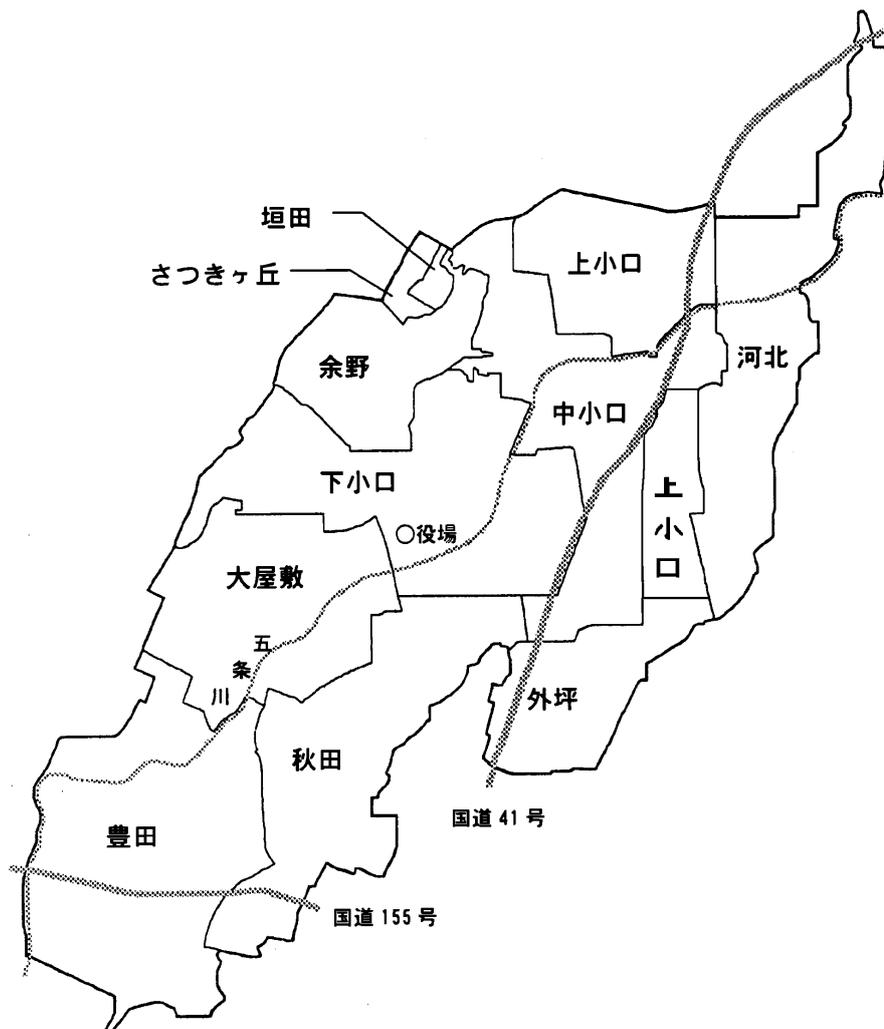
(4) 地区別高齢化率

(上段：人 下段：%)

地 区	秋田	豊田	大屋敷	外坪	河北	余野
人 口	2,195	1,909	1501	789	1,583	4,943
65歳以上人口	416	429	379	219	280	615
比 率	19.0	22.5	25.2	27.8	17.7	12.4
地 区	上小口	中小口	下小口	垣田	さつきヶ丘	合計
人 口	1,668	2,174	3,701	910	826	22,199
65歳以上人口	344	388	722	190	246	4,228
比 率	20.6	17.8	19.5	20.9	29.8	19.0

(平成 22 年 10 月 1 日現在 住民基本台帳より)

〈行政区域図〉



4 人口動態統計年次推移

(単位：人 率：1,000対)

種別 年	人口		出生		死亡		自然増加		乳児死亡(再掲)		新生児死亡		周産期死亡		死産		婚姻		離婚				
	実数	率	男	女	男	女	男	女	実数	率	男	女	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率			
平成 2	85	8.9	82	74	52	33	4.8	82	4.7	-	-	3	3	7	42.9	124	7.1	17	0.97				
7	119	11.2	119	107	70	49	6.3	94	4.9	1	1	2	9.4	5	22.9	132	6.9	33	1.73				
17	21,602	10.7	229	106	83	74	7.4	72	3.3	1	1	-	-	9	37.8	139	6.5	44	2.1				
20	21,908	11.5	252	136	188	92	8.6	64	2.9	-	-	-	-	1	4.0	113	5.2	37	1.7				
21	22,139	10.8	238	100	164	80	7.4	74	3.3	-	-	2	8.3	6	24.6	122	5.5	34	1.5				
22	22,199	10.5	234	111	170	99	7.7	73	3.3	-	-	-	-	4	17.1	125	5.6	41	1.8				
愛知県 H21	7,418,000	9.7	69,768	548,993	609,042	532,823	7.6	14,579	2	183	94	89	2.6	79	1.1	311	4.4	1,520	21.3	45,790	6.3	14,513	2.01
全国 H21	127,510,000	1,070,035	548,993	521,042	609,042	532,823	9.1	-71,830	-0.6	2,556	1,441	1,115	2.4	1,254	1.2	4,519	4.2	27,005	24.6	707,734	5.6	253,353	2.01

※人口は、大口町が愛知県県民生活部統計課発表の総人口、愛知県及び全国が総務省統計課推計の日本人口で各年10月1日現在である。

<率算出式>

$$\text{出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚率} = \frac{\text{出生} + \text{死亡} + \text{自然増加} + \text{婚姻} + \text{離婚}}{\text{人口}} \times 1,000$$

$$\text{死産率} = \frac{\text{死産数}}{\text{出生} + \text{死産数}} \times 1,000$$

$$\text{乳児死亡・新生児死亡率} = \frac{\text{乳児死亡} + \text{新生児死亡}}{\text{出生数}} \times 1,000$$

$$\text{周産期死亡率} = \frac{\text{妊娠22週以後の死産数} + \text{早期新生児死亡数}}{\text{出生数} + \text{妊娠22週以後の死産数}} \times 1,000$$

$$\text{死因別死亡率} = \frac{\text{死因別死亡数}}{\text{人口}} \times 1,000$$

5 選択死因別死亡率・率(人口10万対)年次推移

(単位：人)

死因 年	総数		結核		悪性新生物		糖尿病		高血圧		心疾患		大動脈瘤及び解離		肺炎		慢性閉塞性肺疾患		喘息		肝疾患		腎不全		老衰		不慮の事故		自殺		その他		
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率			
平成 2	85	-	-	-	25	143.2	-	-	2	11.5	14	80.2	10	57.3	-	7	40.1	-	-	-	1	5.7	3	17.8	4	22.9	6	43.4	4	22.9	9	51.5	
7	119	1.5	37	194.5	2	10.5	2	10.5	2	10.5	14	73.6	16	84.1	-	12	63.1	1	5.3	-	1	5.3	2	10.5	4	21.0	7	36.8	3	15.8	17	89.3	
17	157	-	-	-	46	216.4	2	9.4	-	-	30	141.1	19	89.4	-	19	89.4	3	14.1	-	1	4.7	4	18.8	4	18.8	6	28.2	2	9.4	21	98.8	
20	188	-	-	-	51	232.8	3	13.7	-	-	31	141.5	21	95.9	6	27	109.5	-	-	1	4.6	3	13.7	4	18.3	5	22.8	8	36.5	2	9.1	29	132.4
21	164	-	-	-	53	239.4	2	9.0	0	0	27	122.0	16	72.3	2	24	108.4	1	4.5	0	0.0	3	13.6	4	18.1	4	18.1	5	22.6	4	18.1	19	85.8
22	170	-	-	-	54	243.3	1	4.7	0	0	27	127.4	11	51.9	1	22	103.8	3	13.5	0	0.0	3	13.6	4	18.1	5	22.6	4	18.1	19	85.8		
愛知県 H21	55,189	124	1.7	16,888	233.9	648	9.0	220	3.0	8,047	111.5	5,548	76.8	744	10	5,040	69.8	628	8.7	80	1.1	720	10.0	989	13.7	2,063	28.6	1,913	26.5	1,512	20.9	10,025	135.1
全国 H21	1,141,865	2,159	1.7	344,105	273.5	13,987	11.1	6,223	4.9	180,745	143.7	122,350	97.2	13,904	11	112,004	89.0	15,359	12.2	2,139	1.7	15,969	12.7	2,743	18.1	38,670	30.7	37,756	30.0	30,707	24.4	203,045	159.2

(1) 年齢別死亡数・死亡原因（平成22年）

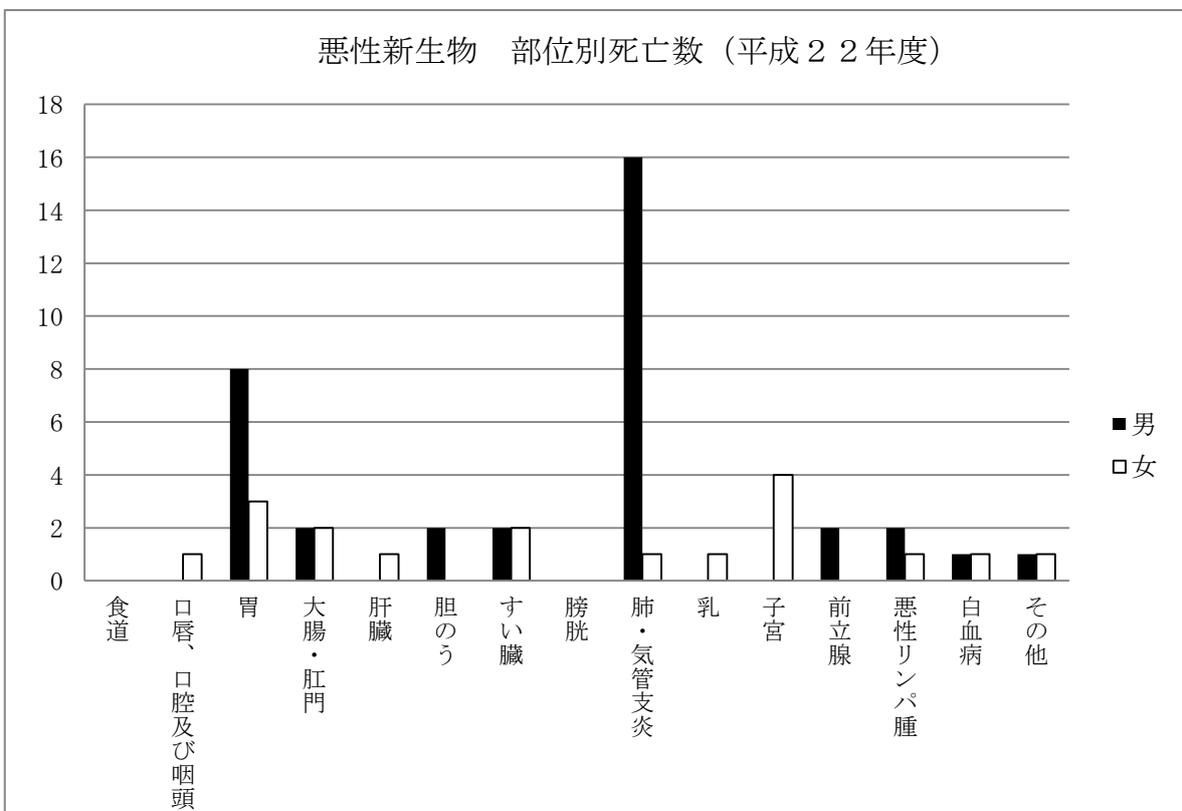
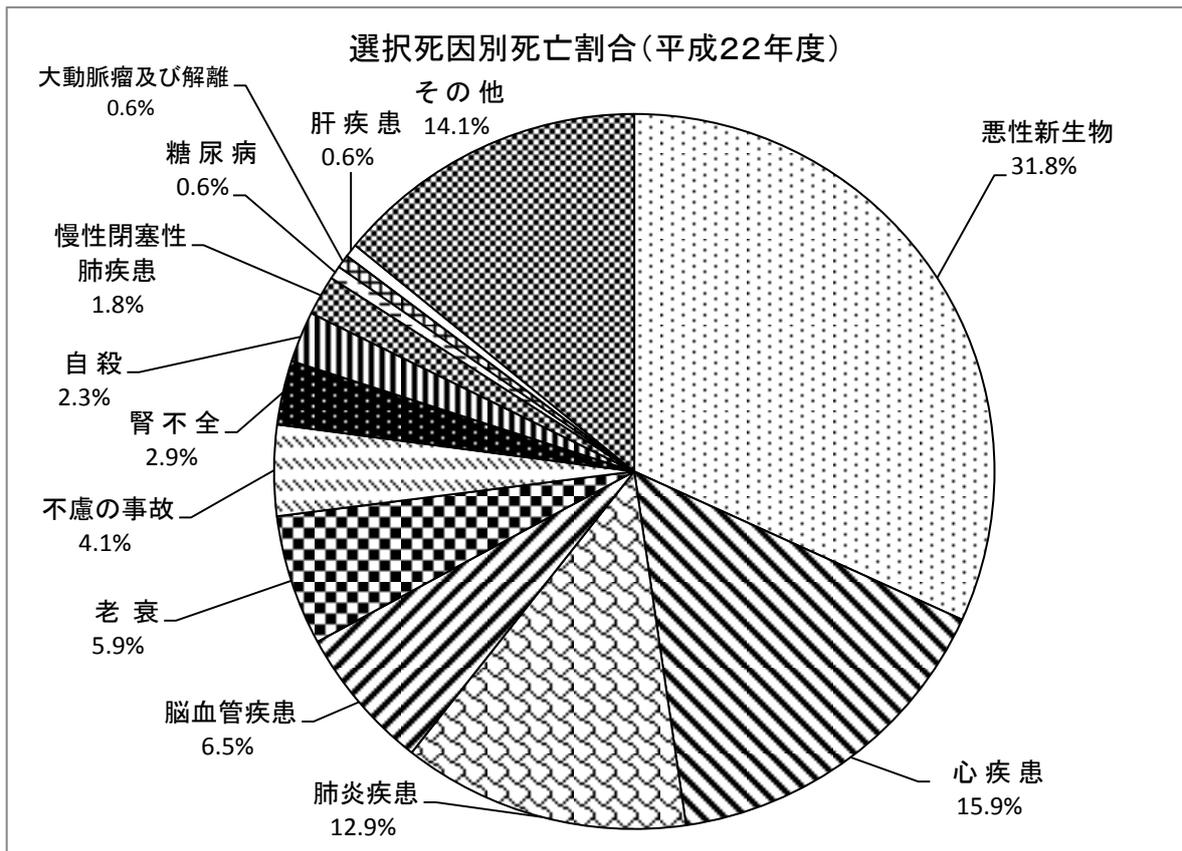
（単位：人）

年 齢 (歳)	結 核	悪 性 新 生 物	糖 尿 病	高 血 圧	心 疾 患	脳 血 管 疾 患	大 動 脈 瘤 及 び 解 離	肺 炎 疾 患	慢 性 閉 塞 性 肺 疾 患	喘 息	肝 疾 患	腎 不 全	老 衰	不 慮 の 事 故	自 殺	そ の 他	総 数
0～9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10～19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20～29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
30～39	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
40～49	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	5
50～59	0	4	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	8
60～69	0	12	0	0	5	2	0	4	1	0	1	1	0	2	1	4	33
70～79	0	21	1	0	7	2	0	3	0	0	0	1	0	2	2	6	45
80～89	0	10	0	0	10	3	1	10	2	0	0	2	5	2	0	4	49
90～	0	2	0	0	5	1	0	4	0	0	0	1	5	0	0	9	27
計	0	54	1	0	27	11	1	22	3	0	1	5	10	7	4	24	170

(2) 悪性新生物 部位別死亡数（平成22年）

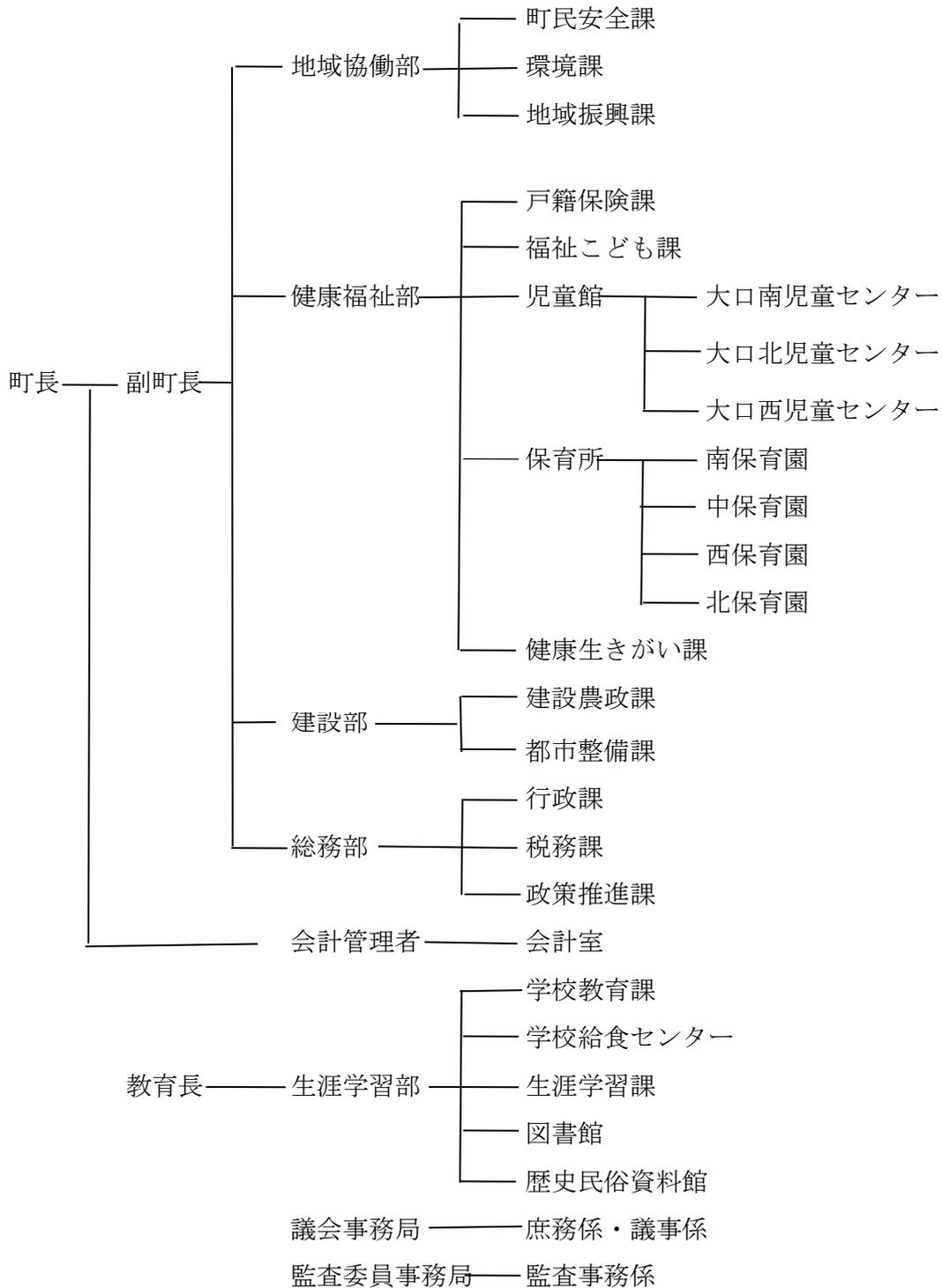
（単位：人）

年 齢 (歳)	食 道	及 び 口 咽 頭 口 腔	胃	大 腸 ・ 肛 門	肝 臓	胆 の う	す い 臓	膀 胱	肺 ・ 気 管 支 炎	乳	子 宮	前 立 腺	悪 性 リン パ 腫	白 血 病	そ の 他	総 数
0～9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10～19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20～29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30～39	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
40～49	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	3
50～59	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	4
60～69	0	0	0	1	1	0	2	0	4	0	0	1	1	1	1	12
70～79	0	0	6	1	0	1	1	0	8	1	1	0	1	0	1	21
80～89	0	0	2	2	0	1	1	0	2	0	1	0	0	1	0	10
90～	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
計	0	1	11	4	1	2	4	0	17	1	4	2	3	2	2	54



6 大口町組織図

(平成22年4月1日現在)



各種団体

社会福祉協議会 (在宅介護サービス、地域福祉事業、相談窓口)
 コミュニティー・ワークセンター (軽作業請負、派遣)

7 保健センター（健康文化センター）の概要

平成 10 年健康づくりの中核拠点、健康と福祉の交流拠点、歴史と文化のふれあい拠点として、健康文化センターが建設され、保健センターも健康文化センター内に移転した。

(1) 施設の概要（健康文化センター含む）

- ・位置 丹羽郡大口町伝右一丁目 3 5 番地
- ・本館 構造 鉄筋コンクリート造 5 階建
(一部鉄骨鉄筋コンクリート造)
 - 1 階 1,847.40 m² 保健センター（専用面積 974.78 m²）
 - 2 階 1,639.98 m² 保健センター（専用面積 611.92 m²）
社会福祉協議会
 - 3 階 1,106.63 m² 歴史民俗資料館
 - 4 階 1,106.63 m² 研修センター
 - 5 階 1,106.63 m² トレーニングセンター
- PH 階（機械室） 167.04 m²
- ・機械棟 構造 鉄筋コンクリート造
床面積 168.00 m²
- ・駐輪場 構造 鉄骨造
床面積 40.00 m²
(延床面積 7,182.31 m²)
- ・敷地面積 10,413.95 m²
(内訳) 本 体 施 設 5,069.95 m²
ふれあい広場、駐車場 5,344.00 m²

- ・本体施設の工期
 - 着工 平成 9 年 6 月 24 日
 - 竣工 平成 10 年 9 月 24 日
- ・使用開始年月日
平成 10 年 11 月 9 日

(2) 保健センターの主要施設

- 1 階 事務室・応接室・栄養実習室・栄養指導室・会議室・相談室・機能回復
訓練室・作業室・多目的室・検査室・授乳室

- 2 階 待合室・予診室・計測室・診察室・歯科室・保健指導室・聴力室・カルテ
庫・消毒室・検査室・プレイルーム・授乳室

(3) 事務分掌

- ア 予防接種に関すること。
- イ 感染症に関すること。
- ウ 救急医療に関すること。
- エ 保健センターの管理運営に関すること。
- オ 地域保健対策に関すること。
- カ 医療団体等に関すること。
- キ 母子保健に関すること。
- ク 成人保健に関すること。
- ケ 健康増進に関すること。
- コ 健康推進員に関すること。
- サ 健康おおぐち21計画の推進に関すること。
- シ 介護保険等の認定調査に関すること。
- ス 健康文化センターに関すること。
- セ その他保健衛生に関すること。

(4) 主な事業内容

- 母子保健…母子健康手帳交付説明会、妊婦相談、妊婦・乳児健康診査、妊婦歯科健診、フレッシュママの会、乳幼児健康診査（4か月児・10か月児・1歳6か月児・3歳児）、離乳食教室、子育て相談室、たんぼぼ教室、2歳3か月児歯科健診、一般不妊治療費助成事業、子育てサークル等支援
- 成人保健…住民結核検診、特定健康診査・特定保健指導、肝炎ウイルス検診、がん検診（胃・子宮・肺・乳・大腸・前立腺）、一般健康診査、わかば健康診査、骨密度測定、健康手帳交付、健康相談、栄養相談、歯科相談、歯周病予防健診、わかば健診事後指導、高齢者の健康づくり教室（しなやかお達者の会、ひだまりの会）、歩く健康の集い、健康づくり自主グループ支援、依頼による健康教育
- 予防接種…集団接種：急性灰白髄炎（ポリオ）、BCG接種
個別接種：麻疹・風疹混合（MR）、三種混合、二種混合、日本脳炎、麻疹、風疹、インフルエンザ（65歳以上等）
任意接種：子宮頸がん、ヒブ、肺炎球菌
- 家庭訪問…第1子出生児全員及び第2子以降の希望者、低出生体重児（2000g以上）及び里帰り等の希望者、乳幼児健診事後フォロー、虐待予防、精神障害者、介護保険認定調査等
- 健康推進事業…健康おおぐち21計画推進事業、健康推進員活動、健康まつり等
- その他…健康文化センター維持管理

8 保健活動の変遷

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
16	<ul style="list-style-type: none"> ・1歳6か月児健康診査及び3歳児健康診査に対する補助金一般財源化される(4月) ・愛知県特定不妊治療費助成事業開始(7月1日) ・赤ちゃん訪問を、第1子全員と第2子以降の希望者に実施(11月～) ・母子保健システム、予防接種電算化推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団がん検診に、前立腺がん・乳がん(MMGを導入)を実施し、自己負担金を徴収する ・住民検診時・わかば健診時に簡易体力測定を実施。まとめを愛知県公衆衛生研究会で発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅当番医制運営補助金一般財源化(4月) ・保健師2名・看護師1名採用(4月) ・保健師1名嘱託採用(4～3月)(訪問看護ステーション) ・保健師1名育休(4月～3月) ・管理栄養士1名育休(4月～3月) ・愛知県広域災害救急医療情報システムの設置及び運営に関する協定書変更(6月) ・児童虐待の防止等に関する法律の一部を改正する法律の施行(10月) ・健康おおぐち21「元気体操」作成(2月) ・「健康おおぐち21」推進イベント「春だ!笑顔だ!元気まつり」を大口町元気な町づくり事業(協働事業)で実施(3月5日) ・健康おおぐち21シンボルマーク公募し決定(3月) ・大口町次世代育成支援行動計画を策定(3月) ・大口町訪問看護ステーション廃止(3月) ・虐待防止連絡会担当者会議開始(3月) ・愛知万博「愛・地球博」開催(3月)「おおぐちデイ」(3月28日)
17	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康に関する連絡会開催(月1回) ・BCG直接接種となる(4月) ・日本脳炎予防接種の積極的接種勧奨を見合わせる(5月) ・日本脳炎予防接種第3期接種を廃止(7月) ・二種混合予防接種第1期接種を廃止(7月) ・ちゅーりっぷの会中止 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本健康診査を除く各種検診を有料とする ・歯周病予防健診(節目年齢)を医療機関委託で実施(8月～10月) ・わかば健診時歯科健診実施 ・8020運動表彰を「健康ウォーク&元気まつり」時に実施 ・介護予防教室(しなやかお達者教室)をあいち健康プラザとタイアップで実施 ・大屋敷ひだまりの会休止(3月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護法施行(4月) ・発達障害支援法施行(4月) ・医療観察法施行(7月) ・健康おおぐち21推進イベントとウォーキング大会を1本化し協働事業で実施 ・健康おおぐち21シンボルマーク愛称公募し決定(11月) ・第6次大口町総合計画策定(3月) ・保健師1名退職(3月) ・大口町母子通園事業試行(4月～3月) ・在宅介護支援センター廃止(3月) ・看護師1名育休(1月～3月)

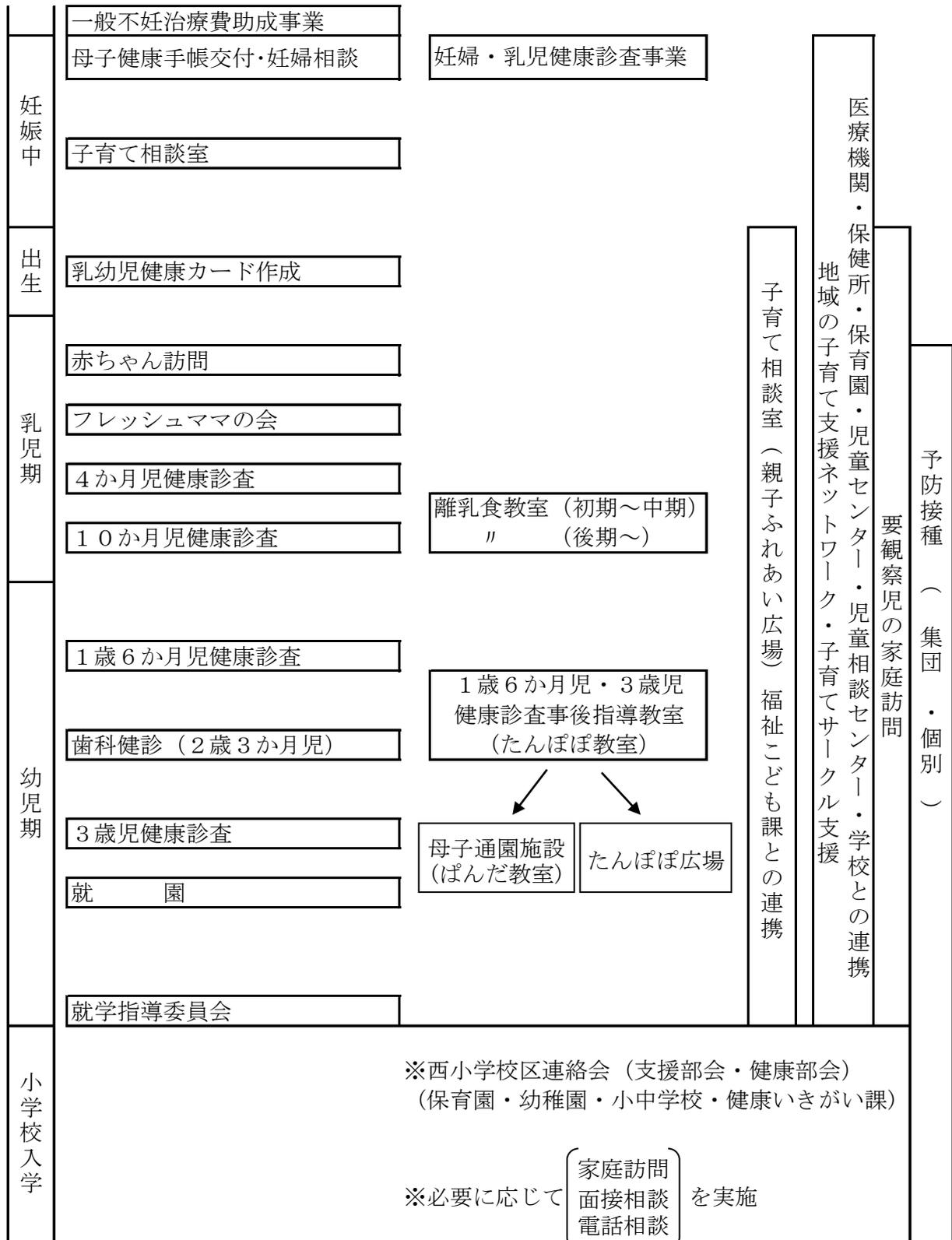
区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
18	<ul style="list-style-type: none"> ・麻しん風しん混合ワクチン接種施行（4月） ・個別予防接種が二市二町共通要領にて実施となる（4月） ・麻しん及び風しんの単抗原ワクチンも法定内接種となる（6月） ・母親教室の名称を変更し、内容を改編し、パパママ教室を育児編・栄養編として実施（各年6回） ・たんぽぽ教室を月2回実施 ・9か月児健診を10か月児健診とする ・マタテキーホルダーを希望者に配布開始（1月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防教室（しなやかお達者教室）を豊田地区で実施 ・男性のための健康づくり教室元気UPヘルシーライフ教室実施 ・住民結核検診の対象が40歳以上となる ・ひだまりの会（中小口）の健康チェックをハートフルへ委託 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターを町直営で開始（保健師1名福祉課へ異動） ・看護師1名育休（4月～3月） ・管理栄養士1名産育休（9月～3月） ・改正介護保険法の施行 ・がん対策基本法の制定（6月） （施行は19年4月） ・障害者自立支援法の施行（4月） ・高齢者・障害者等の移動等の円滑化に関する法律（新バリアフリー法）の制定（6月） ・健康保険法等の一部改正法（医療制度改革関連法）制定・公布（7月） ・歯科衛生士（臨時）1名常勤採用（4月） ・母子通園事業本格実施
19	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦歯科健康診査を医療機関に委託で実施 ・プレママ交流会（栄養編・育児編）の実施 ・歯科健診の対象者を2歳3か月児とする ・1歳6か月児健診時の歯科染めだしを廃止 ・子育て相談室に心理相談員を組み入れる ・西小学校区連絡会発足（健康部会に参加） ・妊婦健康診査の公費負担を4～9月までは4回、10月から7回で実施 ・一般不妊治療費の助成を実施（10月） ・予防接種法施行規則の一部を改正する省令施行（12月） ・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の一部を改正する省令（20年1月） ・麻疹に関する特定感染症予防指針（20年1月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳がん健診の医療機関での視触診のみを廃止、集団での超音波による健診を導入 ・国保連合会事業として「ヨーガ」教室を実施 ・介護予防事業のための人材育成（貯筋体操ひろめ隊）講座を実施 ・介護予防連絡会開始（地域包括支援センターより発信） 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師1名育休（4月～3月） ・管理栄養士1名育休（4月～3月） ・保健師1名育休（9月～3月） ・健康おおぐち21中間評価を実施 ・健康まつり運営事業を「健康クラブ笑顔21」と協働契約で委託実施 ・老人保健法の改正（20年3月）

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
20	<ul style="list-style-type: none"> ・第3期・4期麻疹風しん混合ワクチン接種施行(5月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・国保連合会事業として生き生き教室実施 ・特定健診、特定保健指導開始(4月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師1名育休(4月～3月) ・保健師1名育休(4月～3月) ・保健師1名育休(11月～3月) ・老人保健法の改正により、法律名が「高齢者の医療の確保に関する法律」に変更され施行(4月)
21	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦健康診査の公費負担を14回で実施 ・日本脳炎ワクチンに加え、「乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン」を定期の予防接種に用いるワクチンとして追加する(6月) ・予防接種実施規則の一部を改正する省令の施行 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳がん・子宮がん検診実施医療機関を拡大 ・女性特有のがん検診推進事業開始(9月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・機構改革により、健康課から健康生きがい課となる。 ・看護師1名育休(4月～3月) ・保健師1名育休(4月～3月) ・保健師1名育休(5月～3月) ・保健師1名育休(3月～) ・アメリカで豚由来のインフルエンザウイルスの患者を確認と公表 ・WHO「フェーズ6(世界的流行)宣言 国「基本的対処方針」策定 国「新型インフルエンザワクチン接種の基本方針」策定
22	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳に対する日本脳炎初回接種の積極的勧奨が再開(4月) 日本脳炎ワクチンが使用不可となり、「乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン」のみの使用 第2期接種再開となる 9歳以上13歳未満で第1期末接種者を接種対象とする特例が出る(8月) ・「子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進臨時特例基金事業」により、子宮頸がん・ヒブ・小児用肺炎球菌ワクチンの接種費用の一部助成が開始(1月) ・妊婦健康診査の公費負担項目に子宮頸がん、GBSが追加。超音波検査の年齢条件がなくなり、検査は4回実施。乳児健康診査受診票が1回のみとなる ・パパママ教室、プレママ交流会の休止 	<ul style="list-style-type: none"> ・女性特有のがん検診事業 クーポン券5月に発送 1月に未受診者に受診勧奨通知 ・前立腺がん検診定員を拡大 ・介護・保険・健康の連携した取り組みを開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師3名育休(4月～3月) ・管理栄養士1名育休(4月～3月) ・保健師1名退職(12月) ・地域包括支援センターをハートフル大口へ委託(4月) ・新型インフルエンザ(A/H1N1)ワクチン接種事業が終了(23年3月)

※平成元年～15年までは「平成21年度保健活動のまとめ」に記載。

2 母子保健活動

母子保健 管理体系



※事故予防教育
（乳幼児健康診査、赤ちゃん広場等）

1 母子保健事業の取り組み

母子保健事業は、妊娠・出産・育児を通して母性や父性が育まれ、乳幼児が愛され、かつ心身ともに健やかに育つことを目指している。個々の発達や親の育児力に合わせた保健指導を行い、子育ての支援を行った。

乳幼児健診においては、精神発達面でのフォロー児が多く、継続的に個々にあった支援を行う必要があり、乳幼児健診事後教室と母子通園施設、たんぽぽ広場、保育園等関係部署と継続的な支援へ向けた体制の在り方を検討した。妊娠期からの取り組みでは、産婦人科のサービス向上等の理由で参加者の増加が困難なため、パパママ教室とプレママ交流会を休止した。

2 母子健康手帳の交付・妊婦相談

(1) 目的

妊婦の健康を守り健全な児を生き育てることができるよう保健指導する。

(2) 内容

母子健康手帳の交付及び活用方法の説明、保健センターの行事内容説明と案内、管理栄養士の話、歯科衛生士の話、交流会（自由参加）

(3) 妊娠届出状況

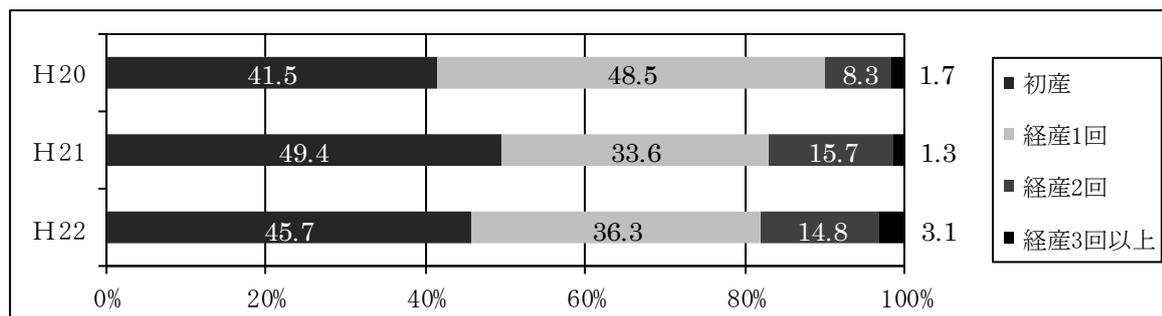
ア 届出時の妊娠週数

(単位：上段・人 下段・%)

区分 年度	総数	妊 娠 週 数				就業	喫煙	飲酒	年 齢	
		11週以内	12~19週	20~27週	28週以降				20歳未満	40歳以上
20	241 (100.0)	141 (58.5)	99 (41.1)	1 (0.4)	0 (0.0)	96 (39.8)	3 (1.2)	2 (0.8)	1 (0.4)	4 (1.7)
21	229 (100.0)	165 (72.0)	62 (27.1)	2 (0.9)	0 (0.0)	100 (43.7)	4 (1.7)	4 (1.7)	3 (1.3)	4 (1.7)
22	256 (100.0)	243 (94.9)	12 (4.7)	0 (0.0)	1 (0.4)	124 (48.4)	5 (2.0)	3 (1.2)	3 (1.2)	7 (2.7)

※母子手帳発行時アンケートでは、「喫煙していたがやめた」と答えた妊婦は66名、「飲酒していたがやめた」と答えた妊婦は97名いた。

イ 年次別経産・初産の割合



3 妊婦・乳児健康診査

(1) 目的

妊婦・乳児の異常を早期に発見し適切に対処することで妊娠の正常な経過や安全な分娩、乳児の個々にあった発達を支援する。

(2) 対象 妊婦および乳児

(3) 内容

母子健康手帳発行時に、妊婦健康診査受診票15枚（第1～14回、子宮頸がん）、乳児健康診査受診票1枚を発行し、医療機関委託で実施している。

(4) 結果（平成22年4月～平成23年3月受診者）

ア 妊婦健康診査受診結果

（単位：人）

	受診人員	異常なし	所見あり	所見あり（再掲）					
				高血圧 蛋白尿	尿糖	貧血	HBs抗原 陽性	GBS	その他
第1回	256(10)	258(10)	12(0)	0(0)	1(0)	10(0)	0(0)		0(0)
第2回	264(9)	245(9)	22(0)	4(0)	0(0)	16(0)			2(0)
第3回	237(11)	224(11)	13(0)	0(0)	1(0)	9(0)			2(0)
第4回	231(11)	213(11)	18(0)	3(0)	0(0)	15(0)			1(0)
第5回	221(13)	203(13)	18(0)	2(0)	1(0)	15(0)			3(0)
第6回	220(15)	207(15)	14(0)	1(0)	1(0)	12(0)			0(0)
第7回	209(13)	195(13)	14(0)	0(0)	0(0)	13(0)			0(0)
第8回	228(15)	165(15)	64(0)	1(0)	0(0)	61(0)			3(0)
第9回	208(17)	188(17)	21(0)	3(0)	2(0)	17(0)			1(0)
第10回	220(21)	176(19)	45(2)	3(0)	0(0)	20(0)		22(2)	1(0)
第11回	190(17)	174(15)	17(2)	1(1)	1(0)	12(0)			4(2)
第12回	199(22)	152(21)	47(1)	1(0)	0(0)	46(1)			1(0)
第13回	155(16)	143(16)	12(0)	1(0)	0(0)	12(0)			0(0)
第14回	101(11)	92(11)	9(0)	3(0)	0(0)	6(0)			0(0)
計	2932(201)	2635(196)	326(5)	23(1)	7(0)	264(1)	0(0)	22(2)	18(2)

※1 ()内は県外受診の再掲

イ 子宮頸がん検査

（単位：人）

受診人数	異常なし	所見あり	所見あり（再掲）			
			Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	Ⅴ
222(8)	220(8)	2	1	1	0	0

※1

ウ 乳児健康診査受診結果（単位：人）

受診人員	異常なし	所見あり (延件数)
231(22)	231	3*①

*①低出生体重児1、体重増加不良1、
水腎症1、心雑音1

4 一般不妊治療費助成事業

(1) 目的

子どもを生き育てたいという希望を持ちながら子どもができない夫婦に対し、不妊治療に要する費用の一部を助成することにより、少子化対策の充実を図る。

(2) 助成額

一般不妊治療に要した自己負担額の2/1相当額(1年度あたりの上限額5万円)

(3) 助成期間

通算2年間(月を単位として期間で数え、助成を開始した最初の月から2年間)

(4) 助成状況

項目 年度	申請件数	母子手帳発行数
20	20(4)件	8人
21	19(7)件	10人
22	18(4)件	1人

※()内は、2回目以降の申請件数の再掲

5 フレッシュママの会

(1) 目的

出産をして間もない時期は、外出する機会も少なく、母親が1人で育児の悩みを抱えやすい。同じ立場の母親たちと集うことにより、母親同士が共感し前向きに育児に取り組めるよう支援する。

(2) 対象 生後1～3か月頃の乳児と母親

(3) 日時 偶数月第4金曜日 午後2時～3時30分

(4) 内容及び従事者

内 容	従事者
<ul style="list-style-type: none"> ・座談会 ・予防接種の説明 ・赤ちゃんの計測(希望者) ・ベビーマッサージ 	保健師 助産師

(5) 参加状況

項目 年度	実施回数	参加者数(初産)
20	6	68組(49組)
21	6	65組(46組)
22	6	94組(71組)

6 低体重児の状況

(単位:人・%)

分類 年度	出生 児数	低体重児 出生数	率	1,300g 未満	1,300～ 1,499g	1,500～ 1,799g	1,800～ 1,999g	2,000～ 2,299g	2,300～ 2,499g
18	253	21	8.3	1	0	0	3	5	12
19	254	20	7.9	2	0	0	0	4	14
20	252	21	7.9	2	0	0	2	4	13
21	238	17	7.1	2	0	0	1	4	10
22	234	17	7.3	0	0	2	1	4	10
愛知県 (21)	69,768	6,968	10.0	339	157	342	502	1,952	3,676

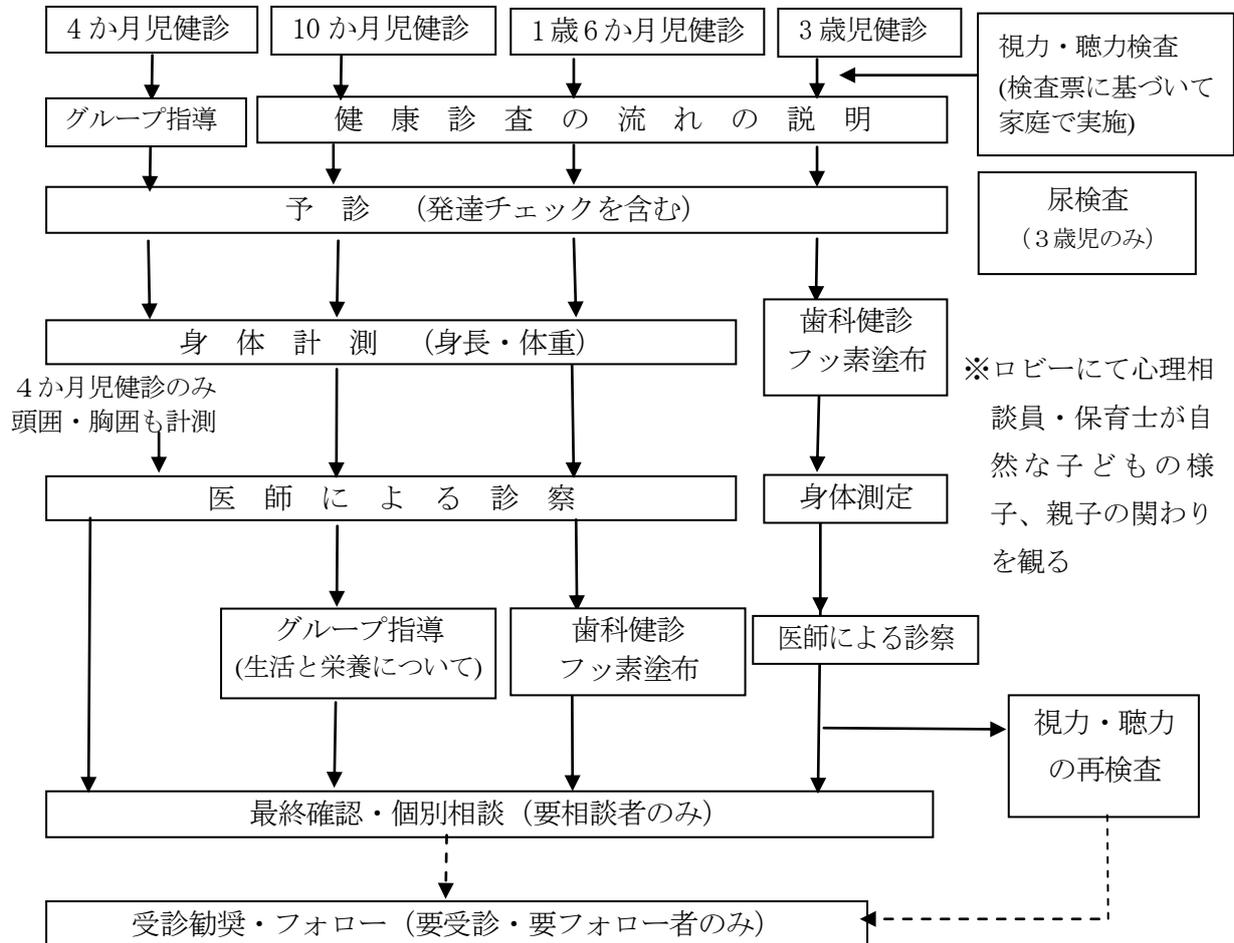
※2,000g以上の低体重児は町の保健師が訪問している。

7 乳幼児健康診査

(1) 目的

乳幼児期の大切な節目である時期に、発育発達状況を確認することで、疾病や心身障害の早期発見に努める。また、個々の成長、育児に合わせた保健指導を行い、子育てを支援する。

(2) 内容



(3) 実施状況

ア 4か月児健康診査

(ア) 受診状況・受診結果

(単位：回・人・%)

区分 年度	実施 回数	対象児数	受診状況		健診結果				保育・家庭環境分類		
			受診者数	受診率	問題なし	要指導	要観察	要医療 要精検 要継続医療	要指導	要観察	要措置 要管理
18	12	254	246	96.9	186	9	43	15	4	0	0
19	12	254	253	99.6	192	6	35	18	8	6	0
20	12	250	249	99.6	171	14	38	30	6	10	0
21	12	240	236	98.3	161	24	38	21	6	4	0
22	12	231	228	98.7	155	36	29	14	6	11	0

※要指導・要観察・要医療・要措置・要管理等は延べ人数

(イ) 受診結果分類

◆疾病分類(上位3項目)

(単位:人)

	合計	男	女	健 診 結 果				
				要指導	要観察	要精検	要医療	要継続医療
皮膚疾患(その他)	19	11	8	11	5	0	2	1
運動・感覚器発達異常	12	7	5	5	7	0	0	0
体重増加不良	11	7	4	3	8	0	0	0

◆保育・家庭環境分類(上位3項目)

(単位:人)

	合計	男	女	要指導	要観察	要措置
家庭環境	6	4	2	2	4	0
育児能力	5	4	1	1	4	0
哺乳	4	3	1	1	3	0

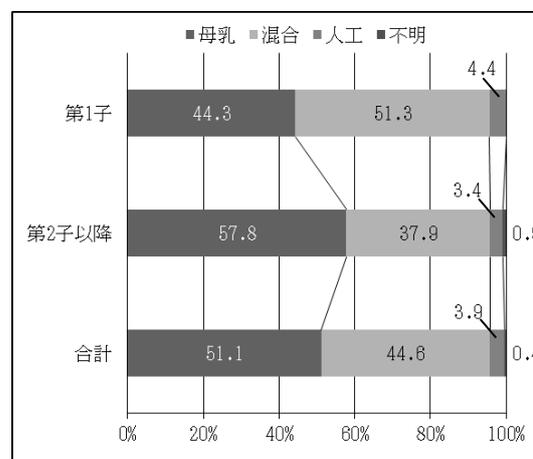
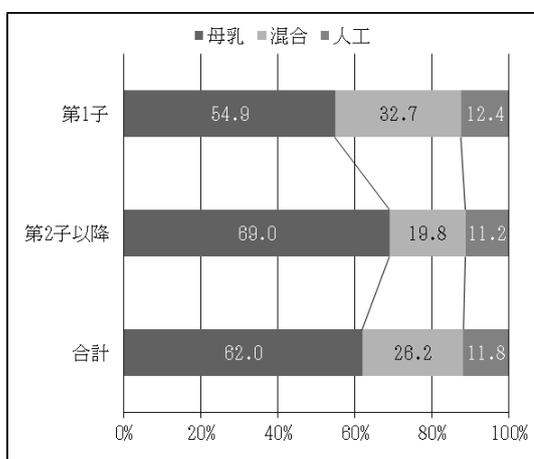
(ウ) 要医療・要精検・要継続医療者の追跡結果

精密検査実施者	異常なし	要観察※1	要医療	
			身体	精神
1	0	1	0	0

※1 内斜視疑い

(エ) 4か月児の栄養状況

(オ) 1か月児の栄養状況



イ 10か月児健康診査

(単位:回・人・%)

区分 年度	実施回数	対象児数	受診状況		健 診 結 果					保育・家庭環境分類		
			受診者数	受診率	問題なし	要指導	要観察	要医療 要精検 要継続医療	要指導	要観察	要措置 要管理	
18	12	239	230	96.2	173	5	28	15	16	4	0	
19	12	266	264	99.2	205	5	27	16	12	8	0	
20	12	245	238	97.1	168	7	30	25	20	12	0	
21	12	256	248	96.9	179	14	25	30	18	16	0	
22	12	219	215	98.2	132	16	37	16	15	24	0	

※要指導・要観察・要医療・要措置・要管理等は延べ人数

ウ 1歳6か月児健康診査

(ア) 受診状況・受診結果

(単位：回・人・%)

区分 年度	実施 回数	対象児数	受診状況		健診結果				保育・家庭環境分類		
			受診者数	受診率	問題なし	要指導	要観察	要医療 要精検 要継続医療	要指導	要観察	要措置 要管理
18	12	212	206	97.2	97	5	90	12	14	13	0
19	12	252	248	98.4	101	12	128	10	12	14	0
20	13	261	257	98.5	98	15	141	13	23	8	0
21	12	241	241	100.0	71	20	150	20	23	15	0
22	12	241	238	98.8	83	17	133	27	19	11	0

※要指導・要観察・要医療・要措置・要管理等は延べ人数

(イ) 受診結果分類

◆疾病分類(上位3項目)

(単位：人)

	合計	男	女	健診結果				
				要指導	要観察	要精検	要医療	要継続医療
精神発達	130	67	63	5	125	0	0	0
皮膚疾患(その他)	7	4	3	4	0	0	0	3
運動発達異常	4	1	3	0	3	0	0	1
ヘルニア	4	3	1	2	1	0	0	1

◆保育・家庭環境分類(上位2項目)

(単位：人)

	合計	男	女	要指導	要観察	要措置
離乳	10	9	1	10	0	0
育児能力	8	5	3	2	6	0
食事・おやつ	4	1	3	3	1	0

(ウ) 要医療・要精検・要継続医療者の追跡結果

精密検査 実施者	異常なし	要観察	要医療	
			身体	精神
0	0	0	0	0

エ 3歳児健康診査

(ア) 受診状況・受診結果

(単位：回・人・%)

区分 年度	実施 回数	対象児数	受診状況		健診結果				保育・家庭環境分類		
			受診者数	受診率	問題なし	要指導	要観察	要医療 要精検 要継続医療	要指導	要観察	要措置 要管理
18	12	244	236	96.7	128	9	106	41	7	7	0
19	13	243	236	97.1	109	12	131	30	9	4	0
20	12	228	217	95.2	81	39	111	30	23	4	0
21	13	265	260	98.1	107	27	148	37	22	8	0
22	12	233	219	94.0	107	15	109	33	6	5	0

※要指導・要観察・要医療・要措置・要管理等は延べ人数

(イ) 受診結果分類

◆疾病分類(上位3項目)

(単位:人)

	合計	男	女	健 診 結 果					
				要指導	要観察	要精検	要医療	要継続医療	
精神発達	84	54	30	10	7	2	0	0	2
聴力障害(疑)	9	5	4	0	0	8	0	1	
視力障害・斜視(疑)	8	5	3	0	1	5	0	2	

◆保育・家庭環境分類(上位2項目)

(単位:人)

	合計	男	女	要指導	要観察	要措置
食事おやつ	5	3	2	4	1	0
育児能力	4	1	3	1	3	0

(ウ) 要医療・要精検・要継続医療者の追跡結果

精密検査実施者	異常なし	要観察	要医療※	
			身体	精神
8	6	0	2	0

※両下眼瞼内反症、両角膜びらん、中耳炎

8 家庭訪問

(1) 赤ちゃん訪問

ア 目的

すべての乳児のいる家庭に対し、家庭訪問により児と母親の健康状態を確認し、個々に応じた適切な保健指導を行う。

イ 対象 乳児のいる家庭・家族

ウ 内容 児の体重計測等発達発育チェック・育児相談・保健指導

エ 従事者 保健師・在宅助産師

オ 訪問状況

(単位:件・人)

	訪問件数			内訳		
	保健師	助産師	合計	新生児	低出生体重児	その他
乳児	62	160	222	46	12	165
産婦	62	160	222			

*双胎0件

※新生児・低出生体重児の重複1件

(2) 要観察児等訪問

ア 目的

若年、妊娠中毒症などのハイリスク妊婦、発達・発育に問題のある乳幼児、育児不安や家庭環境に問題のある母子等、健診未受診者に対し、家庭にあったきめ細やかな保健指導を行い、安心して育児ができるよう支援する。

イ 対象

ハイリスク妊婦

要観察児と家族、健診未受診者

オ 従事者

保健師

カ 訪問状況

(単位:人)

	実人員	延人員
妊婦	0	0
産婦	0	0
乳児	0	0
幼児	30	30
計	30	30

9 子育て相談室

(1) 目的

- ア 親子との交流を通して、不安の軽減や仲間づくりを支援する。
- イ 児の発育・発達を確認する。
- ウ 児の成長発達に合わせた育児を具体的に支援する。
- エ 妊娠中から子どもの姿を見たり、触れたりする機会を持つことで、これからの子育てに向けて心の準備ができる。

(2) 対象

乳幼児とその育児者、妊婦

(3) 日時

第1・第3木曜日 午前9時30分～11時30分（第3木曜日は予約制）

(4) 内容

第1木曜日：身体計測（身長・体重）・個別相談

第3木曜日：身体計測（身長・体重）・個別相談・尿検査・視力検査・聴力検査

(5) 従事者

第1木曜日：保健師・管理栄養士・助産師・歯科衛生士・事務員

第3木曜日：保健師・管理栄養士（必要に応じて歯科衛生士）※奇数月のみ心理相談員

(6) 実施状況

ア 来所者数

（単位：人）

	実人員	延人員	乳児		幼児		妊婦	
			実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員
20	371	1,143	184(40)	475(74)	185(40)	666(55)	2(2)	2(2)
21	383	1,343	192(21)	572(49)	190(26)	769(61)	1(1)	1(1)
22	378	1,128	186(25)	521(50)	192(38)	607(77)	0(0)	0(0)

*（ ）内は第3木曜日の相談者を再掲

イ 相談内容

（単位：人）

	乳児	幼児	妊婦	計
身体（発達・発育）	80	108	0	188
心理相談員再掲	0	15	0	15
栄養（母乳・離乳食等）	144	69	0	213
助産師再掲	30	15	0	45
栄養士再掲	51	30	0	81
歯科相談	13	8	0	21
育児・生活	78	85	0	163
予防接種	12	8	0	20
その他	17	18	0	35
計	344	296	0	640

10 離乳食教室

(1) 目的及び対象者等

	前期（らくらく離乳食教室）	後期（もぐもぐ教室）
目的	離乳食の開始から7か月頃の意義について正しく理解し、一生のうちで離乳食期が食習慣の形成に大切な時期であることを認識する。	咀嚼の促しの必要性や歯の萌出に合わせた離乳食の形態を理解し作ることができる。また、離乳食だけではなく、家族の食事としての充実を図る。
対象者	生後5～7か月児とその保護者	生後8～11か月児とその保護者
日時	奇数月第3水曜日（年6回） 午前10時～11時30分	偶数月第3水曜日（年6回） 午前9時30分～11時30分
場所	保健センター1階 栄養実習室・栄養指導室	
内容	<ul style="list-style-type: none"> 離乳食の開始から7か月頃の講話 離乳食のデモンストレーションとその試食 個別相談（希望者） 	<ul style="list-style-type: none"> 9か月頃以降の進め方についての講話 調理実習（親の食事からの取り分け食） 試食と個別相談（希望者）
従事者	管理栄養士 保健師	

(2) 参加状況

(ア) らくらく離乳食教室の参加内訳

参加者数	5か月未満児	5・6か月児	7か月以上児	第1子	第2子以降	個別相談者
97人	38人	58人	1人	79人	18人	29人

※1回当たり 16.2人の参加

(イ) もぐもぐ教室の参加内訳

参加者数	9か月未満児	9・10か月児	11か月以上児	第1子	第2子以降	個別相談者
59人	11人	43人	5人	42人	16人	28人

※1回あたり 9.8人の参加

参加者のアンケートから離乳食開始時期が生後6か月頃と計画する保護者が増え、提供される食材の形態と子どもの食欲や咀嚼の状況及び歯の萌出等の要素がかみ合っていない親子が多い。保護者が口腔発達の段階を理解し、時期を逃さず児の欲求に応じてスムーズに離乳食を進めていけるよう、健診や乳児相談の場でポイントを押さえて支援する必要がある。

1 1 たんぽぽ教室

(1) 目的

ア 1歳6か月・3歳児健診の事後指導の一環として、親子で集団の場を体験しながら、子どもに合わせた関わりを学び、考えていくことでよりよい発達を促す。

イ 経過観察する中で必要に応じ、療育や地域の子育て支援、個別支援へとつなぐ。

(2) 対象

ア 健診時に育児及び発達上問題があると思われる、経過観察が必要な児とその母親

イ その他、育児環境等に問題があると思われる児とその母親

(3) 日時・回数

ア 毎月第2・4木曜日 午前9時15分～正午

午後1時～3時 (スタッフ間でカンファレンス)

イ 回数 3か月(6回) 1クール(必要に応じ2クールまで継続参加も可)

(4) 内容

時 間	内 容
AM9:15～9:45	スタッフ間の事前カンファレンス
9:45～10:25	親子遊び(設定遊び) 手遊び 体操 親子遊びなど
10:25～10:35	トイレ おやつ 排泄、手洗い、あいさつ、後片付けの面で指導
10:35～11:35	母親グループ 話し合い(育児などについて話し合う) 子どもグループ 集団遊び(他児やスタッフとの関わり合い、自由遊び)
11:35～11:45	担当者と母親との話し合い 母子分離している間の児の様子について

※ 随時個別面接(心理判定員、家庭児童相談員) 22年度は17名面接

(5) 従事者

言語聴覚士(月1回)・心理相談員(月1回)・保健師・保育士・一宮児童相談センター(心理判定員(年6回))、家庭児童相談員(年12回)、母子通園保育士(年6回)

(6) 実施状況

(単位:回・組・人)

参加者の年齢の内訳

項目 年度	実施 回数	参加者数	参加親子組数 (延べ)	平均参加組数
20	24	55(48)	263	11.0
21	23	69(59)	318	13.8
22	24	62(52)	355	14.8

生まれ月	人数
H19.4～H20.3	39
H20.4～H21.3	23
H21.4～H22.3	0

() は新規対象児の再掲

(7) 参加者の状況

(単位:人)

精神発達の問題	精神・運動発達両方の問題	診断名がついている児 (再掲)	その他
58	3	3	1

(8) 参加者のその後の状況

(単位:人)

母子通園施設	たんぽぽ広場	就園	転出	継続	その他
12	32	6	1	9	2

1 2 子育て支援・他機関との連携

(1) 中学生子育て体験

ア 目的

大口町次世代育成支援行動計画の次代の親を育むための教育事業の一環として実施。子どもたちと触れ合う貴重な体験を通して、自分の成長を振り返り、大切に育ててもらった両親に感謝をし、自分を大切にする気持ちや生命の尊さ、人を思いやる心を養う。

イ 対象者及び体験者

大口中学校 1・2・3年生 35人（男子生徒 5人、女子生徒 30人）

ウ 日時

平成22年8月6日（金）、8月9日（月）
各回ともに午前10時00分～11時30分

エ 内容

- ・講話 絵本「赤ちゃんてね」妊娠中の赤ちゃんの様子、乳幼児の発達
- ・ふれあい体験 「めだか広場」参加児とのふれあい

オ 従事者

児童センター保育士8人、保健師2人、教諭2人、子育てネットワークカー6人

(2) たんぽぽ広場連絡会

たんぽぽ広場は、たんぽぽ教室終了後から就園するまでの間の親子のフォローの場として平成18年10月から実施されている。平成21年度までは保健師が月に1回参加していたが、平成22年度よりたんぽぽ広場への保健師の参加を無くし、定期的に連絡会を持つ形となった。

ア 実施状況

平成22年5月19日、8月3日、平成23年3月10日

イ 出席者

福祉こども課保育長、保育士（児童センター・保育園・母子通園施設）、健康生きがい課保健師

(3) 大口町療育支援連絡会

大口町全体の乳幼児期の療育等支援の在り方についての検討会を年4回実施した。その他、保健センターと保育園等での情報交換を実施し、お互いの情報把握に努めた。

ア 実施状況

平成22年5月13日、8月9日、11月25日、平成23年2月10日

イ 出席者

福祉こども課(保育長、障害担当者、保育士(保育園・児童センター・母子通園))
家庭児童相談員、地域包括支援センター職員、健康生きがい課保健師

(4) 大口西小学校区連絡会

大口町の子どもたちを取り巻く様々な現状や課題について、19年度に西小学校区連絡会が立ち上がり、保育園・幼稚園・小学校・中学校・保健センターと一緒に検討し合う場をもった。課題が多岐にわたっているため、支援部会・学習部会・健康部会の3部会制をとり、健康いきがい課は支援部会と健康部会に出席した。

ア 日時及び内容

	日 時	内 容
支 援 部 会	平成 22 年 4 月 27 日 (火)	各機関の新年度の様子 今年度の予定
	5 月 18 日 (火)	中学校へ進学した生徒の様子 心理士からの助言
	6 月 29 日 (火)	2 年生の生徒の様子 事例検討会 (インデント・プロセス法)
	9 月 28 日 (火)	夏休み明けの様子 2 年生の生徒の様子
	10 月 26 日 (火)	就学時健診の様子 地域連携の視察状況の報告
	1 月 25 日 (火)	児童について情報交換 事例検討会 (インデント・プロセス法)
	平成 23 年 2 月 15 日 (火)	1 日入学や幼稚園での子どもの様子 6 年生の生徒の様子
部 健 会 康	平成 22 年 10 月 26 日 (火)	子どもたちの実態、「命の教育」への取り組み 生徒の様子の情報交換

※各回とも、開催時間は午後 4 時～午後 5 時 30 分

イ 場所

大口町立西小学校 相談室

ウ 出席者

幼稚園・保育園・小学校・中学校・健康生きがい課担当者

(5) 要保護児童実務者会議

子どもたちが健やかに成長・発達できるよう児童虐待の予防・早期発見・再発防止のため、関係機関が連携し対策が取れるような体制を整えることを目的とした会議に出席した。(担当は福祉こども課)

ア 日時

原則毎月第 1 木曜日 午後 1 時 30 分～3 時 30 分

イ 場所

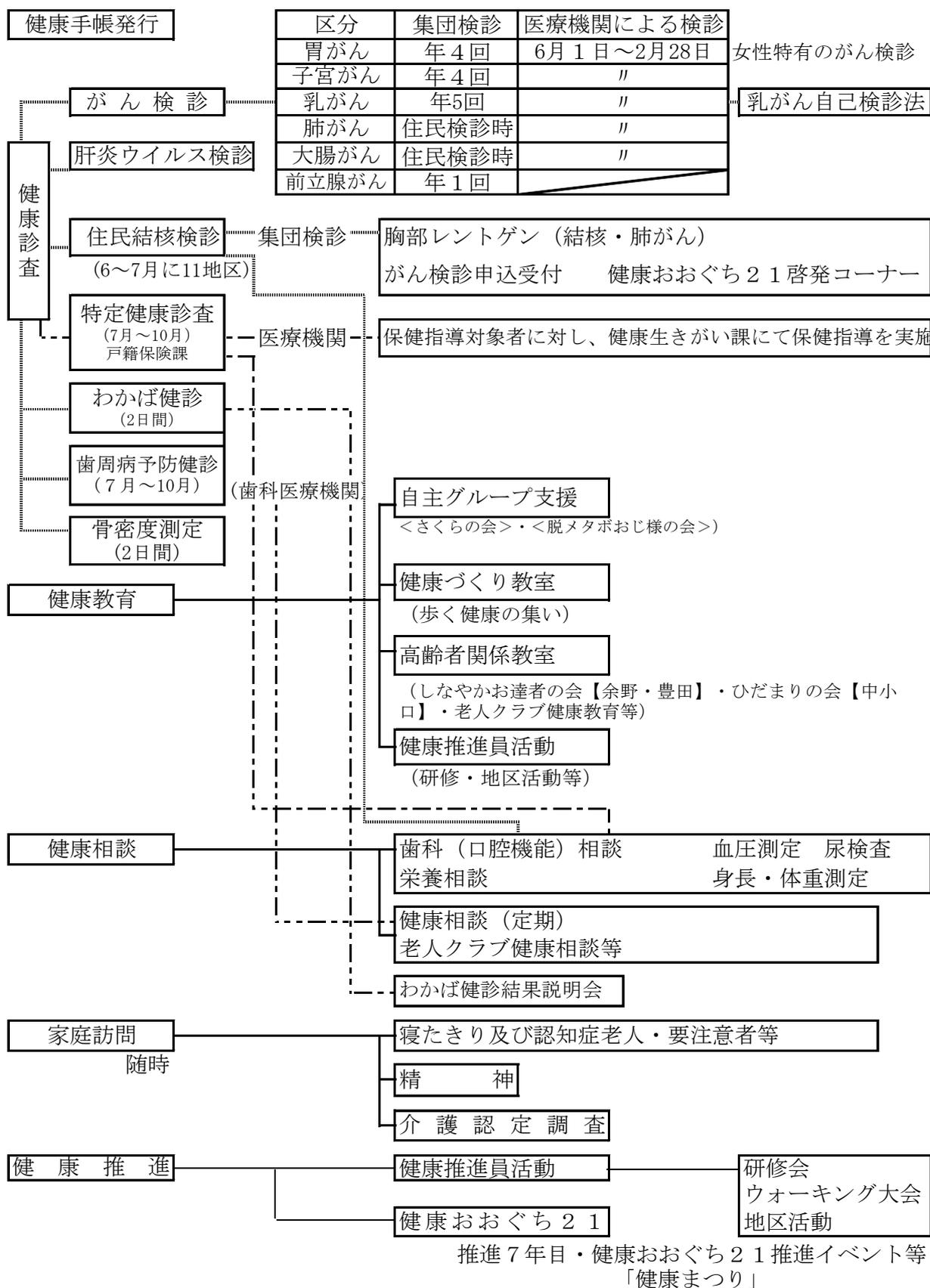
健康文化センター 1 階 会議室

ウ 出席者

一宮児童相談センター 2 人、尾張福祉相談センター 家庭児童相談員 1 人、江南保健所 2 人、福祉こども課 2 人、学校教育課 1 人、健康生きがい課 1 人

3 成人保健活動

成人保健 管理体系



1 成人保健の取り組み

健康増進法に基づき実施する。住民の健康意識の高揚、よりよい健康習慣の定着を図ることにより、健康増進、疾病予防、介護予防などに役立てる。

大口町は、平成5年12月に「健康の町」宣言をし、平成16年3月には大口町の健康づくり計画「健康おおぐち21」を住民と行政とともに策定し、地区住民の意識の高揚と地区活動を積極的に推進してきている。

「健康おおぐち21」の推進に生活習慣病予防分野も加わり、様々な事業が「健康おおぐち21」の推進につながっていることを意識しながら機会を捉えて啓発を行った。

<22年度の重点的な取り組み>

① がん検診の受診率向上に向けた取り組み

受診希望の多かった前立腺がん検診は受診者の定員を拡大

女性特有のがん検診事業については、未受診者へ受診勧奨通知を送付

健康まつりにおいてがんの啓発をテーマに展開

成人の日のチラシにがん検診の啓発チラシ（特に子宮がん検診）をいれる

② 介護・保険・健康の連携した取り組み

介護・保険・健康の各グループが連携しデータを分析して、健康寿命を延ばす取り組みの展開を開始（学共へ出向いて地区住民への啓発等）

2 健康手帳の交付

(1) 目的

健康増進法に基づいて発行。特定健康診査・保健指導の記録、がん検診時などの検診結果や血圧測定値等の健康状態を記入し、自らの健康への意識の高揚を図る。

(2) 対象

40歳以上の住民、その他希望者

(3) 日時

ア 住民検診・がん検診・健康相談・特定健康診査・保健指導等の時

イ その他随時

(4) 交付状況

(単位：人)

区分	健康手帳	わたしの夢をかなえる健康ノート（女性）	合計
40歳未満	4	65	69
40～64歳	69	84	153
65～74歳	65	4	69
75歳以上	13	1	14
合計	151	154	305

3 特定健康診査・特定保健指導

(1) 目的

高齢者の医療の確保に関する法律に基づき、保険者が被保険者及び被扶養者に対し、内臓脂肪症候群等の生活習慣病を中心とした疾病予防に重点を置き、健診及び保健指導を実施。

健診の結果を踏まえ、保健指導の必要度に応じた対象者の階層化を行い、支援体制を整え生活習慣病のリスク要因の減少を図る。

(2) 対象

大口町国民健康保険被保険者（40～75歳未満）

(3) 実施期間及び実施場所

個別健診 7～10月 大口町・扶桑町の委託医療機関

人間ドック 5～8月 人間ドック委託医療機関

メタボツアー 7月16日 あいち健康プラザ

*健診は戸籍保険課にて、保健指導は健康生きがい課にて実施。

(4) 特定健診受診者数（22年度）

（単位：人）

受診券発行者数	4,005
特定健康診査受診者数	1,881

特定健康診査等受診率	47.0%
------------	-------

但し、資格喪失による除外者を含む



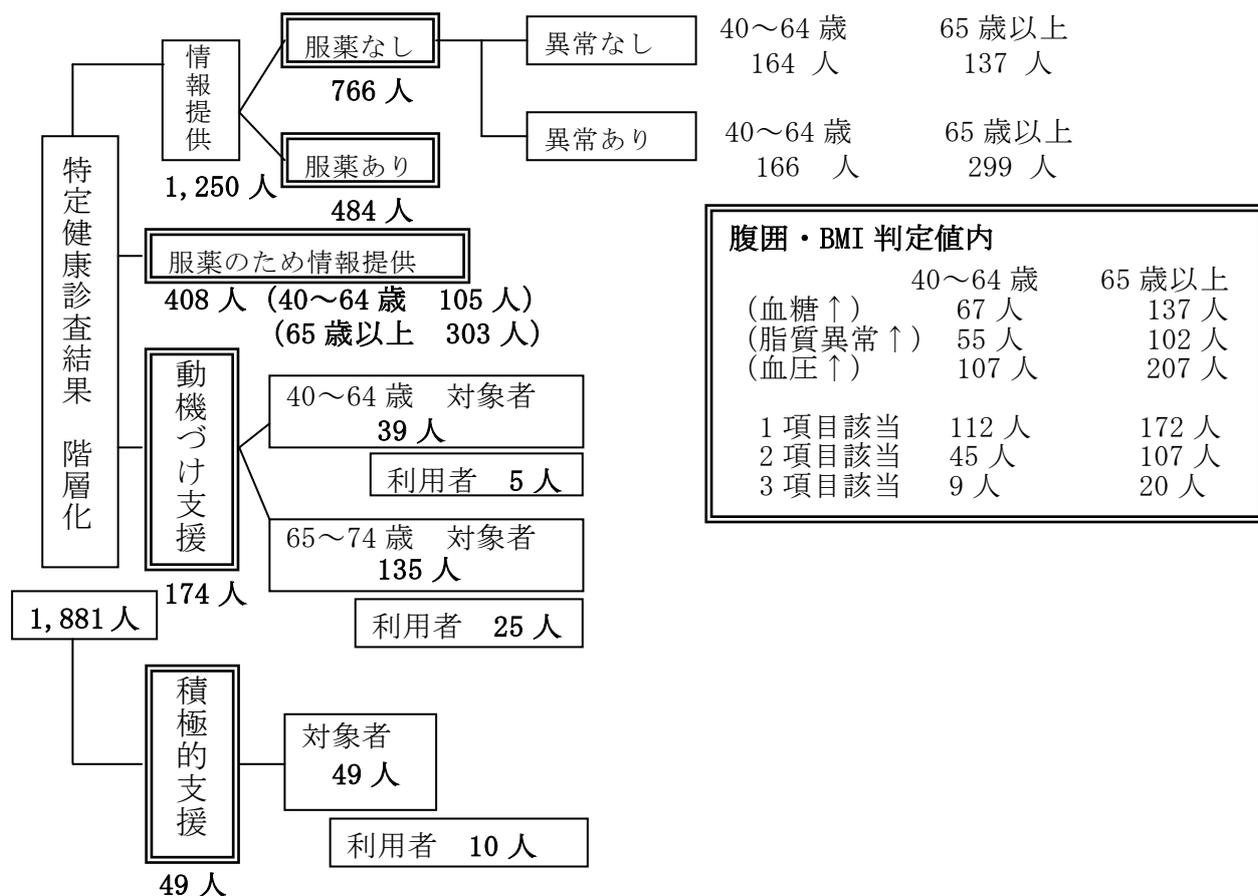
(5) 21年度 特定健診・特定保健指導 法定報告（22年11月報告）

（単位：％）

	全国	愛知県	大口町
特定健康診査 受診率	31.4	34.4	52.8
（積極的支援）終了率	13.6	8.4	26.1
（動機付け支援）終了率	24.5	14.8	27.3
特定保健指導 終了率	21.5	13.1	27.1
内臓脂肪症候群該当者の減少率	24.1	23.5	27.8

資料：戸籍保険課より

(6) 特定保健指導階層化《22年度 受診者（資格喪失による除外者を含む）》



(7) 特定保健指導 利用状況《22年度》

	対象者	利用者	利用率
動機づけ 40~64歳	39人	5人	12.8%
動機づけ 65歳以上	135人	25人	18.5%
積極的	49人	10人	20.4%
全体	223人	40人	17.9%

男性	女性
20人	20人
50.0%	50.0%

保健指導利用率 17.9%

22年度保健指導 支援状況

	初回支援 (グループ) 開始	個別 1か月目	運動支援 (グループ)	個別支援 面接 2か月目	個別支援 中間評価 3か月目	個別 電話	評価 6か月目
21年4クール目	4月5日	4月	5月17日	6月	7月		10月7日
はじめの一歩ツアー	7月16日	—	—	—	—		1月17日
1クール目	9月29日	10月	10月27日	11月	12月		3月31日
2クール目	11月10日	12月	12月6日	1月	2月		5月20日
3クール目	1月12日	2月	2月14日	3月	4月		7月13日

※4クール目は平成23年4月から10月まで実施する

(8) 平成 21 年度特定健診・特定保健指導対象者 特定保健指導実施状況 (保健センター)

※平成 22 年度中に終了し評価した人

※終了者 (男女別)

	終了者
動機づけ (40~64 歳)	8 人
動機づけ (65 歳以上)	31 人
積極的	11 人
全体	50 人

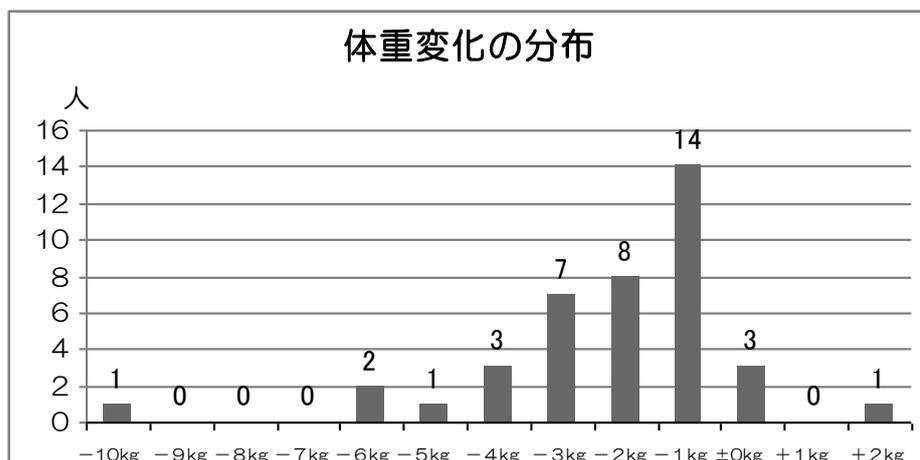
男性	女性
29 人	21 人

〔 他 はじめの一步ツアー (あいち健康プラザ) 利用 6 名
江南厚生病院利用 13 名 〕

『メタボ知っ得! 応援講座』参加者状況

*参加者のうち、初回と最終評価の比較ができた 40 名について

	最大	最小	平均
体重の変化	-10kg	+1.9kg	-2.0kg
腹囲の変化	-12.2 cm	+3.3 cm	-2.2 cm



自己目標の達成状況

	達成	ほぼ達成	できていない
食生活	18 人	12 人	3 人
運動	14 人	11 人	7 人

〈からだの変化〉

- ・少し腹囲減少 古いズボンがはけるようになった。
- ・おなかひっこんだと言われるようになった。
- ・体が軽くなった。
- ・昔の服が着られるようになった。
- ・体も軽く、毎日が楽しい。
- ・昨年度よりやせてコレステロール値が下がった。
- ・食べ過ぎるとすぐにわかる。体重が増えるから・・・
- ・体重は減ったが腹囲は変化なし。もっとやらなければ。

〈こころの変化〉

- ・知らなかったら病気になっていたと思う。
- ・毎日歩かないと気分が優れなくなる。
- ・いらつくことがなくなった。余裕がもてるようになった。
- ・毎日体重計にのることが楽しみになった。
- ・健康第一で人の手を借りず 1 日でも元気でいたい。
- ・せめて 20~30 年前に減量と運動の習慣をつけておけばよかった。
- ・運動の必要性を感じるようになった。

4 各種がん検診

(1) 目的

がんの早期発見に努め、早期治療に結びつけるとともに、がん予防についての知識の普及啓発を行い、意識の向上を図る。

(2) 実施状況 (町内在住で、勤務先等で検診を受ける機会のない方を対象としている)

区分 項目	集 団 検 診	医 療 機 関
実施回数 実施機関 及び 実施場所	< 胃 > 年4回 (検診車) 保健センター < 子宮 > 年4回 (検診車) 保健センター < 乳 MMG > 年3回 保健センター < 乳超音波 > 年2回 保健センター < 大腸 > 住民検診時、検体採取容器を配布 < 肺 > 胸部X線 (住検時) 喀痰 (住民検診時、検体採取容器を配布) < 前立腺 > 年1回 保健センター	平成22年6月1日から、 平成23年2月28日までの町内委託 医療機関の診療時間内 * (H21年度より) 乳・子宮がん検 診委託医療機関を1か所から3か 所に拡大
申込方法	・保健センターへ電話 ・住民検診時、検診会場で受け付け	各医療機関の窓口にて (乳がんは保健センターにて)
検診料	< 大腸 > 300円 < 胃 > 1,000円 < 肺 > X線のみ無料、X線+喀痰300円 < 乳 > 700円 (超音波) 1,000円 (MMG) < 子宮 > 500円 < 前立腺 > 300円	< 大腸 > 500円 < 胃 > 2,000円 < 肺 > X線のみ500円 X線+喀痰 1,500円 < 子宮 > 1,000円 < 乳 > 1,500円

(3) 検診内容及び受診対象年齢

種 類	内 容	受診対象年齢
胃	胃部X線撮影	20歳以上
子宮	視診・細胞診	20歳以上
乳 (個別)	視触診・MMG (X線検査)	40歳以上
(集団)	視触診・健康教育 (自己検診法)	40歳以上 30~39歳
	MMG (X線検査) 超音波	
大腸	便潜血反応試験による2日間採便法	20歳以上
肺	胸部X線撮影・喀痰検査	20歳以上
前立腺 (集団のみ)	血液検査 (PSA検査)	50歳以上

(4) 年度別実施状況

ア 胃がん

(単位：人・%)

	年度	対象者	受診者数			受診率	結果				精検結果(再掲)			
			集団	医療機関			異常なし	要観察	要精検	判定不能	異常なし	がん	がん以外の疾患	未受診・未把握
40歳以上	18	5,913	424	175	249	7.2	333	23	68	0	15	0	39	14
	19	4,900	421	178	243	8.6	321	35	62	3	7	0	50	5
	20	4,713	374	191	183	7.9	281	37	56	0	13	1	32	10
	21	4,719	419	189	230	8.9	303	57	58	1	14	0	34	10
	22	4,725	420	199	221	8.9	321	41	58	0	15	0	41	2
40歳未満	18	—	29	24	5	—	25	1	3	0	0	0	3	0
	19	—	22	17	5	—	17	3	1	1	0	0	1	0
	20	—	24	14	10	—	16	5	3	0	1	0	2	0
	21	—	16	14	2	—	15	1	0	0	0	0	0	0
	22	—	18	12	6	—	15	1	2	0	1	0	1	0
計	18	—	453	199	254	—	358	24	71	0	15	0	42	14
	19	—	443	195	248	—	338	38	63	4	7	0	51	5
	20	—	398	205	193	—	297	42	59	0	14	1	34	10
	21	—	435	203	232	—	318	58	58	1	14	0	34	10
	22	—	438	211	227	—	336	42	60	0	16	0	42	2

イ 大腸がん

(単位：人・%)

	年度	対象者	受診者数			受診率	結果			精検結果(再掲)				
			集団	医療機関			異常なし	要再検	要精検	異常なし	がん	がん以外の疾患	がんの疑い	未把握
40歳以上	18	5,913	594	272	322	10.0	555	39	39	6	2	17	0	14
	19	4,900	639	259	380	13.0	584	55	55	17	3	31	0	4
	20	4,713	595	264	331	12.6	547	48	48	14	2	26	0	6
	21	4,719	686	289	397	14.5	641	45	45	12	4	20	1	8
	22	4,725	734	308	426	15.5	694	40	40	16	3	18	0	3
40歳未満	18	—	11	2	9	—	10	1	1	0	0	0	0	1
	19	—	24	9	15	—	23	1	1	1	0	0	0	0
	20	—	21	6	15	—	20	1	1	1	0	0	0	0
	21	—	12	9	3	—	12	0	0	0	0	0	0	0
	22	—	22	15	7	—	21	1	1	1	0	0	0	0
計	18	—	605	274	331	—	565	0	40	6	2	17	0	15
	19	—	663	268	395	—	607	0	56	18	3	31	0	4
	20	—	616	270	346	—	567	0	49	15	2	26	0	6
	21	—	698	298	400	—	653	0	45	12	4	20	1	8
	22	—	756	323	433	—	715	0	41	17	3	18	0	3

ウ 子宮がん検診

(単位：人・%)

	年度	対象者	受診者数			受診率	結 果			精検結果 (再掲)					
			集 団	医 療 機 関			異常なし	その他の疾患	要精検	異常なし	異形成	が ん	がん以外の疾患	保 留	未 把 握
30歳以上	18	3,669	312	250	62	8.5	262	48	2	0	-	0	2	-	1
	19	3,710	322	269	53	8.7	280	40	2	2	-	0	0	-	0
20歳以上	20	4,314	358	298	60	8.3	271	87	0	0	-	0	0	-	0
	21	4,304	587	276	311	13.6	517	67	3	0	-	0	3	-	0
	22	4,301	668	313	355	15.5	541	116	12	2	6	0	0	2	2

エ 乳がん検診

(単位：人・%)

	年度	対象者	受診者数			受診率	結 果			精検結果 (再掲)			
			集 団	医 療 機 関			異常なし	要観察	要精検	異常なし	が ん	がん以外の疾患	未 把 握
40歳以上	18	3,080	365	255	110	11.9	339	1	25	14	0	8	3
	19	3,125	269	215	54	8.6	242	1	26	11	4	10	1
	20	3,125	274	231	43	8.8	240	0	34	18	0	12	4
	21	3,115	506	243	263	16.2	451	0	55	21	0	19	15
	22	3,112	511	245	266	16.4	449	0	62	29	1	17	15

40歳未満	18	—	10	0	10	—	8	1	1	1	0	0	0
	19	—	78	78	0	—	71	4	3	2	0	1	0
30歳～39歳	20	—	71	71	0	—	60	1	5	0	0	3	2
	21	—	82	82	0	—	67	3	10	5	0	5	0
	22	759	68	68	0	—	49	12	7	1	0	3	3

※ (その他の疾患：H20年5名 H21年2名 H22年1名)

計	18	—	365	255	110	—	339	1	25	14	0	8	3
	19	—	279	215	64	—	250	2	27	12	4	10	1
	20	—	352	309	43	—	311	4	37	20	0	13	4
	21	—	588	325	263	—	518	3	65	26	0	24	15
	22	3871	579	313	266	—	497	12	68	30	1	20	17

オ 乳がん・子宮がん検診 コーポン利用者再掲

	年 度	対 象 者	受診者数			受診率
			集 団	機 療		
乳がん	21	742	180	47	133	24.3
	22	748	255	66	189	34.1

	年 度	対 象 者	受診者数			受診率
			集 団	機 療		
子宮がん	21	831	174	22	152	20.9
	22	693	210	33	177	30.3

カ 肺がん検診

(単位：人・%)

	年度	対象者	受診者数				受診率	結 果			精検結果 (再掲)					
			集団		医療機関			精検不要	要精検		異常なし	が ん (悪性)	が ん の 疑 い	が ん 以 外 の 疾 患	経 過 観 察	未 受 診 ・ 未 把 握
			X線及び 喀痰	X線のみ	X線及び 喀痰	X線のみ			肺がん 以外の 疾患	肺がん の 疑 い						
40歳以上	18	5,913	926	28 546	43 309	15.7	900	16 10	10	0	0	3	-	13		
	19	4,900	881	16 492	45 328	18.0	853	14 14	9	0	0	3	-	2		
	20	4,713	804	27 459	27 291	17.1	761	36 7	3	0	0	1	-	3		
	21	4,719	957	34 536	19 368	20.3	937	14 13	6	1	0	5	-	1		
	22	4,725	937	17 515	36 369	19.8	913	16 8	6	1	0	6	5	6		
40歳未満	18	—	5	0 0	0 5	—	5	0 0	0	0	0	0	-	0		
	19	—	12	0 0	1 11	—	12	0 0	0	0	0	0	-	0		
	20	—	10	0 0	1 9	—	9	0 1	0	0	0	1	-	0		
	21	—	8	0 0	2 6	—	8	0 0	0	0	0	0	-	0		
	22	—	8	0 0	0 8	—	0	0 0	0	0	0	0	0	0		
計	18	—	931	28 546	43 314	—	905	16 10	10	0	0	3	-	13		
	19	—	893	16 492	46 339	—	865	14 14	9	0	0	3	-	2		
	20	—	814	27 459	28 300	—	770	36 8	3	0	0	2	-	3		
	21	—	965	34 536	21 374	—	945	14 13	6	1	0	5	-	1		
	22	—	945	17 515	36 377	—	915	16 8	6	1	0	6	5	6		

キ 前立腺がん検診

(単位：人・%)

年度	対象者	受診者 (集団)	受診率	結 果			精検結果 (再掲)					
				異常なし	要再検	要精検	異常なし	が ん	が ん の 疑 い	前 立 腺 肥 大	そ の 他	未 把 握
19	1,695	77	4.5	73	0	4	3	1	0	0	0	0
20	1,507	82	5.4	75	0	7	1	4	0	0	2	0
21	1,523	80	5.3	72	0	8	4	1	0	1	1	1
22	1,532	152	9.9	143	0	9	3	2	1	0	3	0

※がん予防効果を高めるために、要精検者のうち受診結果が返送されない方について受診2か月後に医療機関に受診状況を確認。未受診者の方には、受診勧奨を行なった。

※各検診の受診者中の要精検率と、精検者のうちの精検受診率

	要精検率	精検受診率
胃がん検診	13.8%	96.6%
大腸がん検診	5.4%	92.5%
子宮がん検診	1.8%	100.0%
乳がん検診	12.5%	90.6%
肺がん検診	2.6%	75.0%
前立腺がん検診	5.9%	100.0%

5 住民（結核）検診

(1) 目的

感染症法に基づき、定期的に結核健康診断を実施することにより、結核の早期発見・早期治療につなげることを目的とする。

また、疾病予防・健康づくりに関する知識の普及・啓発を行う。

(2) 対象

40歳以上で、会社・学校等に勤務していない方

(3) 日時

6月29・30日 7月1・2日

(4) 内容

胸部レントゲン検査（間接撮影）（肺がん検診を兼ねる）、健康おおぐち21啓発
*各地区健康推進員・健康クラブ「笑顔21」のメンバーの協力のもと実施

(5) 実施状況

ア 年度別年齢別受診者状況

（単位：人）

年度 \ 年齢	受診者数	40～49	50～59	60～69	70以上
18	574	28	67	276	203
19	508	26	56	218	208
20	486	40	49	229	168
21	570	35	55	270	210
22	532	34	37	232	229

イ 胸部レントゲン検査結果（異常所見ありの内訳）

結果	人数
要観察者	13人
要精検者	11人 精密検査結果 異常なし2人 経過観察1人 肺結核治癒（痕）1人 肺がん1人 気管支拡張症1人 間質性肺炎2人 肺気腫及び間質性肺炎1人 肺がんを疑う所見なし1人 両肺の陳旧性炎症性変化1人

ウ 健康おおぐち21啓発コーナー

- ・がん検診を受けよう（がん検診申込み受付）
- ・健康手帳の発行
- ・歯のアンケート
- ・骨密度申し込み
- ・生活の中での運動量を増やそう（スロトレ体験）
- ・体脂肪測定
- ・お口の体操
- ・歯周病予防検診申し込み

6 わかば健康診査

(1) 目的

20・30歳代の若い年代で健診を受ける機会のない方を対象とし、生活習慣病の早期発見および生活習慣の改善に向けた指導を行い、予防意識の向上を図る。健康相談を通して日常生活を見直し、健康の保持増進を図る。

(2) 対象

町内在住の20・30歳代の住民で健診を受ける機会のない方（定員各日65人）

(3) 日時

平成22年7月14日（火） 午後1時～午後3時45分

平成22年10月5日（火） 午後1時～午後3時45分

(4) 健診方法及び内容

健康教育（メタボリックシンドローム・食品中の油脂について）

身長・体重・腹囲測定、血圧測定、尿検査、血液検査、歯科健診またはブラッシング指導に振り分けて実施

(5) 従事者 保健師 管理栄養士 歯科衛生士 事務員 委託機関

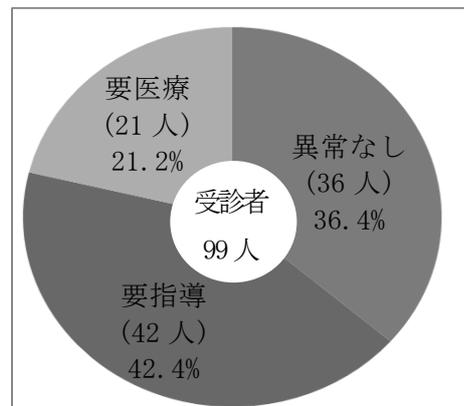
(6) 実施結果

ア 年齢別受診者数

（単位：人）

	男		女		合計
	20歳代	30歳代	20歳代	30歳代	
18	4	4	11	85	104
19	3	7	17	87	114
20	1	2	9	97	109
21	1	4	19	88	112
22	1	3	16	79	99

イ 総合判定

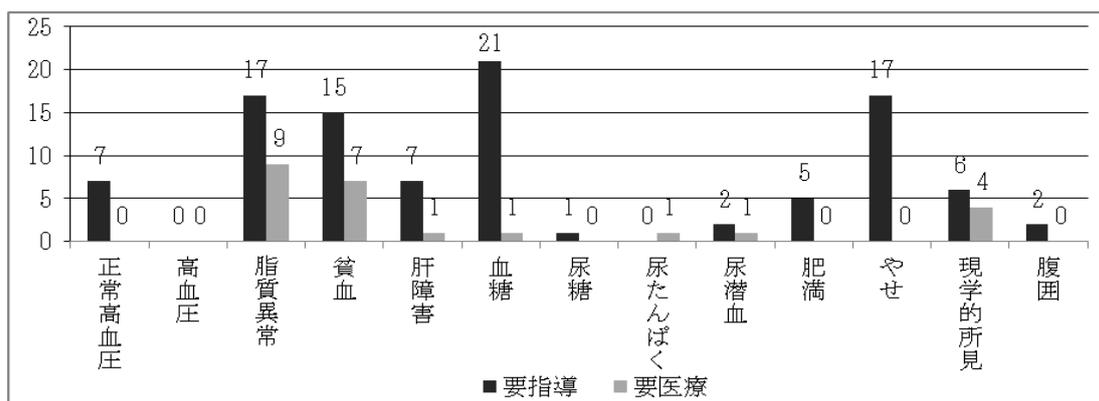


ウ 要指導・要医療の疾病分類（延べ数）

（単位：人）

	正常高値血圧	高血圧	脂質異常	貧血	肝障害	血糖	尿糖	尿蛋白	尿潜血	肥満	やせ	理学的所見	腹囲
18	11	0	34	3	4	1	1	2	3	8	16	0	
19	6	3	37	12	5	7	2	0	4	8	24	4	8
20	4	2	37	19	8	4	1	0	1	8	32	1	2
21	5	4	25	32	6	27	0	3	9	3	27	0	4
22	7	0	26	22	8	22	1	1	3	5	17	10	2

エ 平成22年度 疾患別 要指導・要医療判定分類 (延べ人数)



受診者が集まらず、保育園にチラシを掲示したり35歳～39歳の国保の方を対象に個別通知による勧奨を行った。結果説明会対象者を、血圧・血糖・脂質の保健指導対象値の方に変更し、生活習慣の振り返りを行ったが、説明会時には1名のみの参加であり個別相談を行った。2回目には、結果説明会として日程は設けず毎週金曜日の健康相談日の案内チラシを同封し、1名の健康相談があった。

7 肝炎ウイルス検診

(1) 目的

健康増進法に基づき、肝炎対策の推進の観点から、住民が自身の肝炎ウイルス感染の状況を認識し、必要に応じて保健指導等を受け、医療機関に受診することにより、肝炎による健康障害を回避し、症状を軽減し、進行を遅延させることを目的とする。

(2) 対象

満40歳の者（年度末年齢）

満41歳以上で過去に当該肝炎ウイルス検診に相当する検診を受けたことがなく、検診を希望する者

(3) 実施場所 大口町・扶桑町の委託医療機関

(4) 日時 平成22年7月1日～10月30日

(5) 内容 問診、C型肝炎ウイルス検査、HBs抗原検査

(6) 実施状況

項目 区分	受診者	B型肝炎ウイルス		C型肝炎ウイルス	
		陰性	陽性	現在、C型肝炎ウイルス(HCV)に感染していない可能性が極めて高い	現在、C型肝炎ウイルス(HCV)に感染している可能性が極めて高い
40歳	41	41	0	41	0
その他の年齢	4	4	0	4	0
計	45	45	0	45	0

8 骨密度測定

(1) 目的

骨粗鬆症は寝たきりの原因となる骨折の基礎疾患となるため、早期に骨量の減少者を発見し、骨粗鬆症予防の動機づけを行なう。また、「健康おおぐち21（生活習慣病予防分野）」の推進の一つとして、節目となる年齢を機会に自分の骨密度を知ることによって健康意識の高揚を促し、骨量を増やす生活習慣を実践へと結びつける。

(2) 対象

町内在住の節目年齢の女性※及び一般住民(定員各日95人)

※「節目年齢」とは、平成23年3月31日をもって40歳・45歳・50歳・55歳・60歳・65歳・70歳の女性を意味し、以下「節目者」とする。

(3) 周知方法

①節目者のうち国民健康保険加入者に、特定健診郵送時にチラシを同封

②広報おおぐち、広報無線、各事業時にチラシによる啓発

(4) 日時

平成22年10月14日（月）・平成22年11月15日（月） 午前9時30分～午後3時30分

(5) 方法

超音波法による かかと部の骨密度測定

(6) 従事者

保健師 管理栄養士 事務員 委託機関（医師・検査技師）

(7) 実施結果

ア 受診者の内訳（単位：人）

性別	節目	一般	合計
女	38	112	150
男	—	14	14
合計	38	126	164

イ 受診結果（単位 人）

	受診者	異常なし	要観察	要指導	要精検
39歳以下	26	9	10	7	0
40歳代	12	7	4	1	0
50歳代	26	14	1	9	2
60歳代	68	23	1	34	10
70歳以上	32	10	0	17	5
合計	164	63	16	68	17

骨密度は女性ホルモン（エストロゲン）に左右され、更年期以降異常は増えている。妊娠出産の影響は証明されていないが、遺伝要素もあるといわれる。39歳以下の受診者においても、骨密度の低い方の割合が高い。年齢を問わずチラシを用いて機会をとらえた啓発をしていく。

9 健康教育

健康教育は、住民の健康意識の高揚、より良い生活習慣の定義を図ることにより、健康増進・疾病予防・寝たきり予防などに役立てることを目的としている。

健康おおぐち 21 計画の推進をベースに、中間評価に基づき、健康づくりをしやすいまちづくりを目指すとともに健康おおぐち 21 計画の目標に沿った具体的な取り組みを推進した。

生活習慣病予防については健康推進員地区活動時や各団体からの要請時のテーマとして取り上げ、血圧・脂質・歯周病等についてさまざまな場で周知・啓発を行い、生活習慣の見直し・改善の機会となるよう事業展開を行った。また、高齢者については、お口の健康についての啓発を中心に行った。

(1) 歩く健康のつどい

ア 目的

手軽にできる運動として『歩くこと』を通して、健康の保持増進・生活習慣病予防に努める。

イ 対象 一般住民

ウ 従事者 保健師（健康チェック・準備体操時のみ）

エ 日時・内容

月 2 回（第 2・4 火曜日）午前 9 時 30 分～11 時

健康チェック（血圧測定・検尿（第 2 火曜日）

健康おおぐち 21 元気体操 ウォーキング（主に五条川沿い）

オ 参加状況（単位：回・人）

年度	実施回数	実人数	参加延人数	1 回平均参加者数
20	21	36	275	13.1
21	23	34	323	14.4
22	23	33	272	11.8

カ 健康チェック

健康チェック実施者 272 人

血圧測定者 258 人、尿検査実施者 137 人

(2) 要請による健康教育

(単位：人)

事業名 (依頼団体)	実施月日	実施内容	参加人数
大屋敷区高齢者 ふれあいの会	5月2日	お口の健康について	71
下小口敬老会 健康推進員	5月9日	お口の健康について	150 +10
外坪老人クラブ 健康推進員	5月12日	歯とお口の働き 『おいしく食べるお口を保つために』	51 +3
さわやかクラブ (秋田老人クラブ) 健康推進員	5月22日	『食べることとお口のこと』	50
さつきヶ丘区老人クラブ (ちとせ会)	7月12日	お口の健康について	30
豊田老人クラブ (さくらの会)	7月12日	お口の働きや体操について 尿失禁体操について	28
余野老人クラブ (女性の会)	7月28日	女性特有のがんについて 尿失禁について お口の機能について	23
上小口 寿楽会 健康推進員	11月15日	『長生きの秘訣』 お口の健康について インフルエンザ予防接種について	60
PPK 地区巡回	9月余野地区 1月外坪地区	大口町の健康・保険・介護予防について 考えてみよう！	41 49
脱メタボおじさまの会	7月12日 1月15日	知っ得！血糖値の話 地産地消について	11 11
脱メタボさくらの会	偶数月 第1火曜日	メタボ改善のための支援 毎回の計測・元気体操	47
高齢者教室 「さくら大学」	毎月1回	教室開始前の元気体操 随時、健診等の啓発	360
元気体操	随時	元気体操の指導 (南小・町民体育祭)	530
健康クラブ笑顔21 各部会	随時	健康おおぐち21推進	311

(3) 健康教育のまとめ

(単位：回・人)

区分 事業	事業名	対象	開催 回数	参加延人員
年間計画による事業	乳がんMMG健康教育	成人女性(40歳以上)	3	245
	乳がん超音波健康教育	成人女性(30~39歳)	2	68
	健康推進員研修会	健康推進員	6	305
	わかば健診時健康教育	20歳から39歳	2	99
	骨検診	一般住民	2	164
	健康まつり	一般住民	1	1,300
	ウォーキング大会	一般住民	1	394
	歩く健康のつどい	一般住民	23	272
	健康講演会	一般住民	1	520
	合 計		41	3,367
要請による事業	高齢者教室「さくら大学」	高齢者	12	360
	元気体操普及時健康教育	一般住民	2	530
	健康クラブ笑顔21 各部会	健康クラブ笑顔21	32	311
	ハッピー・スマッピー健康教室	一般住民	8	198
	トレーニングセンター食育推進	トレーニングセンター利用者	2	30
	脱メタボおじさまの会	脱メタボおじさまの会員	2	22
	脱メタボさくらの会	脱メタボさくらの会員	6	47
	健康推進員活動(各地区)	地区住民	28	293
	老人クラブ(各地区)	老人クラブ員	6	242
	下小口区敬老会	下小口区 高齢者	1	150
	大屋敷区高齢者ふれあいの会	大屋敷区高齢者	1	71
	元気会(さつきヶ丘区)	元気会員	6	161
	PPK地区巡回	余野・外坪地区	2	90
	フレッシュママのかんたん!野菜クッキング	20~30代の母親	1	20
合 計		109	2,525	
健康教育合計			150	5,892

10 健康相談

健康相談事業は、住民が抱えている健康問題に対して、生活習慣改善を中心に実施している。定例の健康相談（毎週金曜日）に加えて、随時電話相談や健康相談、また健康教育時に相談を行い、より住民の健康的な生活を支援できるよう努めている。

(1) 健康相談

ア 目的

健康相談（電話・面接）を通して日常生活の不安を取り除いたり、見直したりすることで、健康の保持増進につなげる。

イ 対象

一般住民

ウ 従事者

保健師 看護師 管理栄養士 歯科衛生士

エ 実施状況

(ア) 電話相談 723 件

(イ) 面接相談 144 件

主な内訳	件数
幼児	172 件
乳児	30 件
予防接種	478 件
精神	11 件
栄養（再掲）	24 件

主な内訳	件数
脳血管疾患	19 件
生活習慣病	35 件
幼児	22 件
その他の疾患	43 件
栄養（再掲）	73 件

(ウ) 金曜日健康相談

実施回数 38 回 147 件（血圧測定・尿検査 13 件）

(2) 健康教育時健康相談

教室名	実施回数	延べ人数
歩く健康の集い	21 回	272 人
ひだまりの会（中小口）ボランティアを含む	21 回	203 人
しなやかお達者の会（余野）	24 回	102 人
しなやかお達者の会（豊田）ボランティアを含む	23 回	199 人
脱メタボさくらの会	4 回	47 人
元気会（さつきヶ丘）	4 回	88 人
健康推進員地区活動（中小口）	1 回	11 人
ハッピー・スマッピー健康教室	4 回	46 人
合計	102 回	968 人

11 介護予防事業

要介護の発生の予防または要介護状態になるのを遅らせるために効果のある教室を実施する。

(1) 地域での介護予防

ひだまりの会（中小口）・しなやかお達者の会（余野・豊田）

ア 目的

教室に参加することにより、筋力低下や転倒を防ぎ、身体機能全般の維持・向上を図る。また、仲間同士の交流等により心身の活性化を図る。

介護予防地域支援事業の一般高齢者施策として実施。

イ 対象者

高齢者

ウ 日時及び場所

毎月 第2・4金曜日 午前9時30分～12時 中小口地区コミュニティーセンター

毎月 第2・4火曜日 午前9時30分～12時 余野区学習等共同利用施設

毎月 第1・3火曜日 午前9時30分～12時 豊田地区学習等共同利用施設

エ 従事者

余野：健康運動指導士(年2回)・保健師

中小口：健康運動指導士(年2回)・看護師・ボランティア

豊田：健康運動指導士(年2回)・看護師・ボランティア

*豊田はハートフル大口・看護師に委託

オ 実施状況

地区	回数	参加実人数		参加延人数		平均参加者数	
		対象者 (再掲 新規参加者)	ボラン ティア	対象者	ボラン ティア	対象者	ボラン ティア
余野	24回	21人(3人)	2人	307人	34人	14.6人	1.4人
豊田	23回	17人(4人)	7人	177人	56人	7.7人	2.4人
中小口	21回	13人(4人)	7人	123人	101人	5.9人	4.8人

余野：平成19年度末に余野の老人クラブにて貯筋運動を講師を招いて実施し、その後新規参加者が増加した。また特定高齢者のプログラム終了者への紹介や参加者自身の声かけにより参加者が増加している。

豊田：平成20年から健康推進員活動の一環として推進員が参加したことで、参加者が拡大。

中小口：一年間のおおむねの予定を立て、ボランティア中心に実施している。ボランティアの得意分野を生かし、内容に取り入れている。毎年4月に行われる地区の老人会でハンドベル演奏をするための練習も活動に取り入れている。

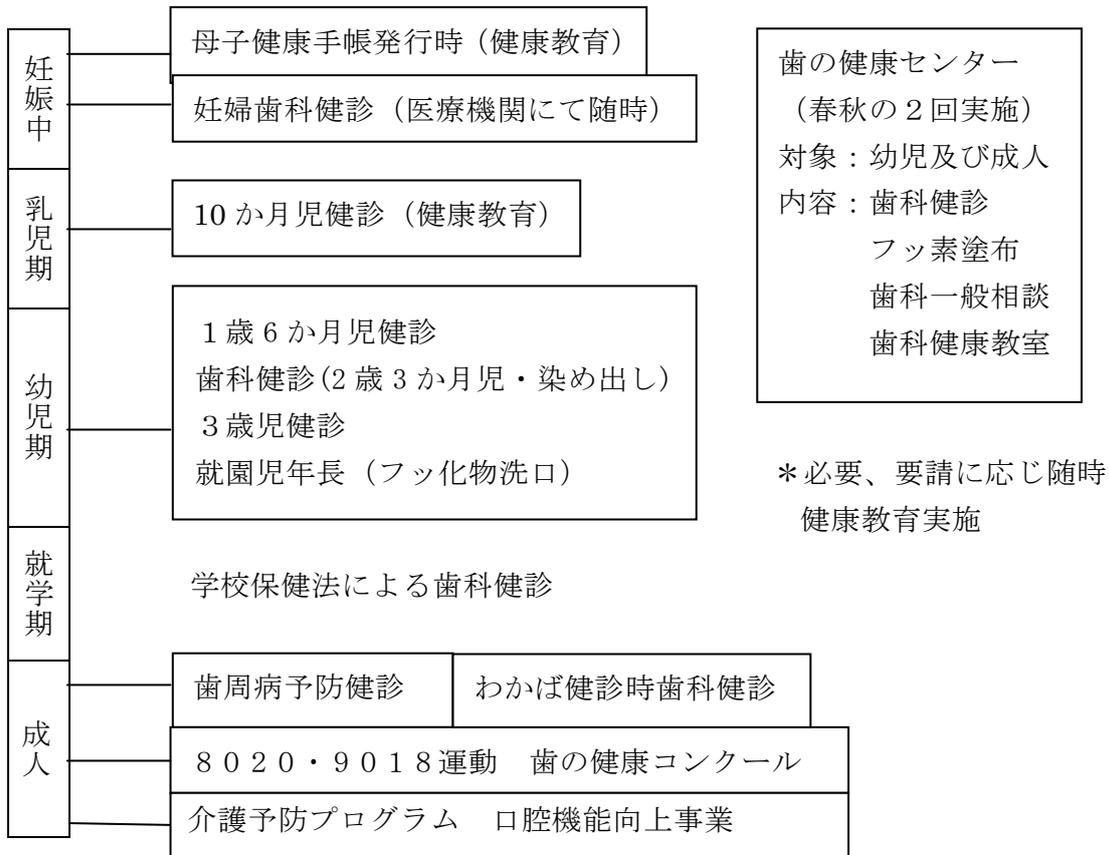
4 齒科保健活動

1 歯科保健事業の取り組み

食事を十分に咀嚼し、健康で豊かな生活を維持するには、妊娠期からの歯科保健への取り組みが重要である。

健康おおぐち 21 の歯の目標である「いつまでも自分の歯で食べよう」「いつまでも明るく歯を出して笑おう」に向け、健康と歯のつながりを意識した取り組みを継続し、高齢者への健康教育の充実、一般住民の方と一緒に歯周病予防と介護予防の啓発をしていく。

歯科保健管理体系



2 幼児期歯科健康診査

(1) 目的

歯牙が形成される乳幼児期に、歯の大切さと正しい衛生習慣を身につけるとともに、歯科健診・フッ素塗布を行ない、虫歯予防に努める。

(2) 内容

健康教育（ブラッシング法、生活リズムを整えて虫歯予防）・歯科健診
染め出し（歯科健診時）・フッ素塗布・個別指導

(3) 結果

ア 1歳6か月児健診時歯科健診

(単位：人・％・本)

年度	種別	対象者	受診 児数	受診結果					虫歯罹患状況			フッ素 塗布 者数	その他の要指導	
				O1	O2	A	B	C	虫歯有病 者数(率)	虫歯本数			歯列 咬合	その 他
										総数	一人 あたり			
18		212	205	46	152	7	0	0	7(3.4)	20	0.10	202	12	35
19		252	248	84	161	2	0	1	3(1.2)	12	0.05	246	23	52
20		261	257	74	172	11	0	0	11(4.3)	27	0.11	254	18	11
21		246	241	74	164	2	1	0	3(1.2)	14	0.06	237	28	53
22		244	238	81	153	3	1	1	5(2.1)	12	0.05	231	17	59

イ 歯科健診

(単位：人・％・本)

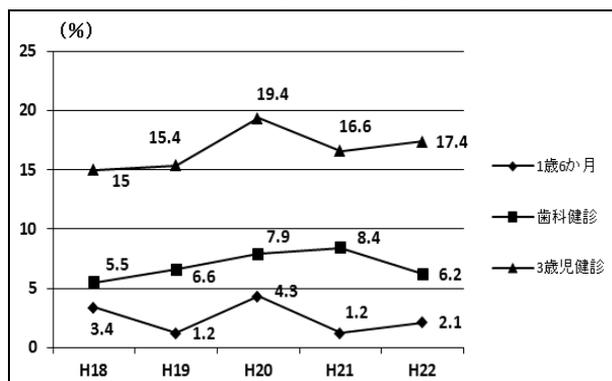
年度	種別	対象者 数	受診 児数	受診結果					虫歯罹患状況			フッ素 塗布 者数	その他の要指導			
				O1	O2	A	B	C	虫歯有病 者数(率)	虫歯本数			指し やぶり	歯列 咬合	その 他	
										総数	一人 あたり					処置 指数
18			345	95	231	14	3	2	19(5.5)	61	0.2	2	344	11	72	81
19		221	197	37	147	8	5	0	13(6.6)	44	0.2	6	194	7	16	44
20		253	229	29	182	16	1	1	18(7.9)	47	0.2	0	226	12	32	43
21		253	238	31	187	18	2	0	20(8.4)	48	0.2	2	233	8	28	38
22		248	226	43	168	13	0	1	14(6.2)	31	0.1	1	222	10	21	54

ウ 3歳児健診時歯科健診

(単位：人・％・本)

年度	種別	対象者	受診 児数	受診結果					虫歯罹患状況			フッ素 塗布 者数	その他の要指導			
				O	A	B	C1	C2	虫歯有病者 数(率)	虫歯本数			処置 歯数	指し やぶり	歯列 咬合	その 他
										総数	一人 あたり					
18		244	232	197	24	8	0	3	35(15.0)	133	0.6	11	227	6	24	37
19		245	234	198	24	11	1	0	36(15.4)	123	0.5	4	232	8	41	36
20		229	216	174	30	10	0	2	42(19.4)	137	0.6	2	211	4	24	47
21		265	260	217	27	11	0	5	43(16.6)	151	0.6	13	250	16	37	55
22		232	218	180	31	2	0	0	38(17.4)	104	0.5	2	211	8	25	50

エ 健診別虫歯保有率の推移



<う蝕罹患型>

- O1：う蝕がなく、かつ口の中の状態がよいもの
- O2：今う蝕はないが、将来う蝕になりそうなもの
- A：上顎前歯部のみ、または臼歯部のみとう蝕のあるもの
- B：上顎前歯部及び臼歯部とう蝕のあるもの
- C1：下顎前歯部のみとう蝕のあるもの
- C2：下顎前歯部を含み、他部位とう蝕のあるもの

3 フッ化物洗口説明会

(1) 目的

永久歯が生え始める時期である年長児対象に、集団の場で虫歯予防に取り組むことができる。虫歯予防としてフッ化物洗口を実施する意義を伝え、保育園と親と子で永久歯の虫歯予防に努められるよう健康教育の場とする。

(2) 内容

実施期間	平成 23 年 1 月～2 月
実施場所	町内保育園（南、西、中、北）
対象者・参加人数	年中児の保護者 129 名（南 34 名 西 45 名 中 22 名 北 28 名）
内容	フッ化物洗口説明 フッ化物洗口見学・体験 講話
従事者	園長・歯科医師・歯科衛生士

4 妊婦歯科健康診査

(1) 目的

妊娠中は生活の変化やホルモンの影響などで虫歯になりやすく歯肉炎や口内炎もおきやすいため、妊婦の歯肉炎や虫歯の予防と早期発見に努める。

乳歯の質を決めるこの時期に歯科健診を受け、歯科保健について学習する機会をもうけ、生まれてくる子どもの虫歯予防の啓発とする。

(2) 受診者の状況

ア 受診者数 (単位：人)

年 度	18	19	20	21	22
初産婦	22	40	48	45	48
経産婦	25	46	42	30	44
計	47	86	90	75	92

イ 健診結果 (単位：人・本)

区分 年度	受診 者数	う歯の ある者	歯周疾患の ある者	平均 処置歯数	平均 現在歯数	平均 健全歯数
2 2	92	53	86	8.6	28.1	18.4

ウ 歯周コード (単位：人)

0	1	2	3	4
7	10	43	31	1

エ 判定結果 (単位：人)

異常なし	要指導	要精検
8	24	60

5 歯の健康センター

- (1) 目的 歯科保健に対する意識の向上と低年齢児のう蝕の予防、ならびに成人のう蝕・歯槽膿漏による歯の喪失の予防に努める。
- (2) 日時 平成22年 6月 6日(日) 午前9時30分～11時30分
平成22年11月 7日(日) 午前9時30分～11時30分
- (3) 内容 歯科健診 フッ素塗布 一般歯科相談 歯科健康教育
- (4) 受診状況 (単位：人)

実施年度	実施回数	受診者総数	受診者内訳	
			幼児	成人
20	2	269	221	48
21	2	278	227	51
22	2	259	210	49

6 わかば健康診査時歯科健診

- (1) 目的
20・30歳代の若い年代から歯周疾患の早期発見と予防に努める。歯の健康に関して学び、正しいブラッシングの方法を身に付ける。
- (2) 従事者
歯科医師 歯科衛生士 保健師
- (3) 歯科健診受診者状況 (単位：回・人)

区分 年度	実施 回数	受診者数			年齢別	
		総数	男	女	20歳代	30歳代
22	2	57	2	55	10	47

- (4) 健診結果

ア 歯牙・歯周健診結果 (単位：人・本)

受診者数	未処置の う歯のある者	歯周疾患の ある者	平均 処置歯数	平均 現在歯数	平均 健全歯数
57	25	45	9.6	28.8	18.2

イ 歯周コード (単位：人)

受診者数	0	1	2	3	4
57	2	10	18	26	1

ウ 総合判定 (単位：人)

受診者数	異常なし	要指導	要精検
57	6	9	42

7 歯周病予防健診

(1) 目的

成人歯科保健に対する意識を高め、歯周疾患の早期発見と予防に努める。

歯の健康に関して学び、正しいブラッシングの方法を身に付ける。

(2) 対象 平成23年3月31日までに満40・45・50・55・60・65・70・75歳の節目になる者

(3) 実施機関・場所 平成22年7月1日～10月31日 町内歯科医療機関

(4) 実施内容 口腔内及びその周辺診査・保健指導

(5) 受診者状況 (単位：回・人)

区分 年度	受診者数			年齢別			
	総数	男	女	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
20	24	3	21	6	2	13	3
21	20	3	17	2	3	9	6
22	15	3	12	3	4	6	2

(6) 健診結果

ア 歯牙・歯周健診結果 (単位：人・本)

受診者数	未処置の う歯のある者	歯周疾患の ある者	平均 処置歯本数	欠損補綴歯本数 (処置歯の再掲)	平均健全歯 数
15	5	14	11.9	22	13.2

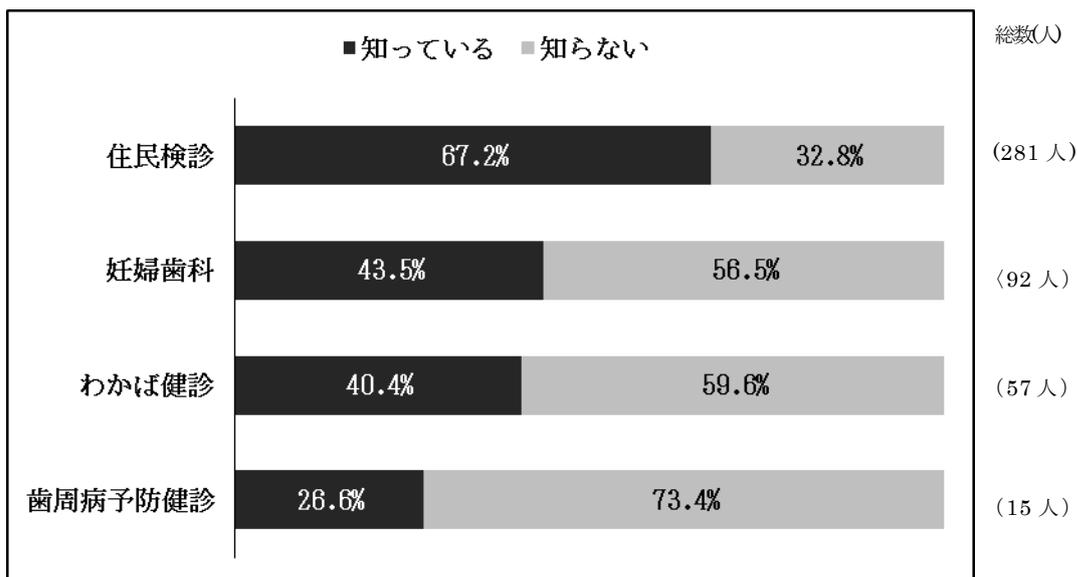
*欠損補綴歯…失われた歯を人工歯で補ったもの

イ 総合判定 (単位：人)

受診者数	異常なし	要指導	要精検
15	0	1	14

(7) アンケート結果

ア 喫煙と歯周病の関係認知度



妊婦歯科健診、わかば健診、歯周病予防健診、住民検診時のアンケートより

(8) 歯の健康づくり得点

妊婦歯科健診、わかば健診、歯周病予防健診、健康相談時に実施した。歯の健康づくり得点は、口の中を見なくてもその方の口の健康状態を把握できるものである。大口町民の歯の健康状態の傾向を把握し、健康教育に役立て、歯の健康増進につなげていくことを目的としている。

ア 実施人数

(単位：人)

	男	女
40歳未満	4	181(89)
40歳以上	4	15(3)
合計	8	196(92)

イ 歯の健康づくり得点で16点以上の者

(単位：人)

	男	女	妊婦
40歳未満	0	54	24
40歳以上	3	8	1

()内は妊婦歯科健診受診者

はちまるにいまる きゅうまるいちほち

8 8020・9018運動 歯の健康コンクール

(1) 目的

生涯を通じた歯の健康づくりの一環として、80歳以上で20本以上の歯がある方・90歳以上で18本以上の歯がある方を表彰し、歯科保健への認識を高める。

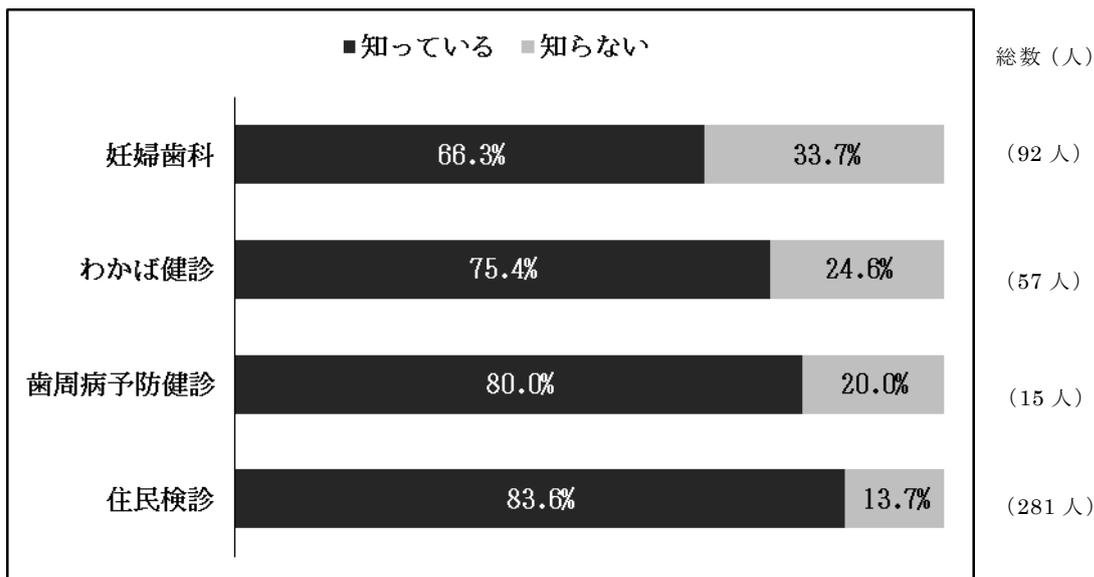
(2) 表彰日時 平成22年11月6日(土)「ふれあいまつり2010」にて

(3) 表彰者 13人 内訳(男性 7人 女性 6人)

(8020 12人 9018 1人)

(4) 8020運動の認知度

ア 実施結果



妊婦歯科健診、わかば健診、歯周病予防健診、住民健診時のアンケート結果より

9 口腔機能向上事業

(1) 目的

いつまでも、いきいきとして暮らしていくために、口腔機能維持、改善をし、高齢者が自立した生活が送れるよう支援していく。また要介護状態の発生予防を目的に特定高齢者に対して支援していく。

(2) 内容

事業名	おいしく食べれる健口教室	はつらつお口の教室
対象者	一般高齢者・特定高齢者	特定高齢者
実施時期 実施回数	第1回 平成22年12月17日 午後1時30分～午後3時15分	平成22年4月～6月 平成23年1月～3月 1クール月2回 6回コース
実施場所	健康文化センター1階 機能回復訓練室	健康文化センター2階 保健センター 保健指導室
従事者	歯科衛生士 管理栄養士 事務員	歯科衛生士 管理栄養士 事務員
参加者 状況	第1回 17人(男2人 女15人)	4月～6月 6人(男2人 女4人) 1月～3月 4人(男1人 女3人)
周知方法	広報掲載、包括支援センターから 特定高齢者へ連絡訪問、チラシ配布にて勧誘	おいしく食べれる健口教室時の参加者に案内勧誘
実施内容	健康おおぐち21元気体操 歯科衛生士講話(45分) 口腔清掃、お口の機能について お口の体操、唾液腺マッサージ 管理栄養士講話(30分) 味覚チェック、 食べたくなる工夫 免疫力アップのための食事のコツ アンケート記入	1回目 事前アセスメント 2回目 健康おおぐち21元気体操 ～ 口腔清掃、お口の体操 だ液線マッサージ、ゲーム 講話(歯周病とむし歯、 唾液、飲み込み、口腔機能) 5回目 栄養 6回目 事後アセスメント *継続できるようカレンダー作成し、 家での口腔ケアとお口の体操の実施状 況を記入し、次回持参してもらった。

教室参加後のアンケートより全員の方が「教室に来てよかった」という感想だった。「はつらつお口の教室」参加者は全員に改善が見られた。

<改善された項目>

食事に関すること：5人

会話・笑顔が増えたこと：4人

口の渇きが改善されたこと：2人

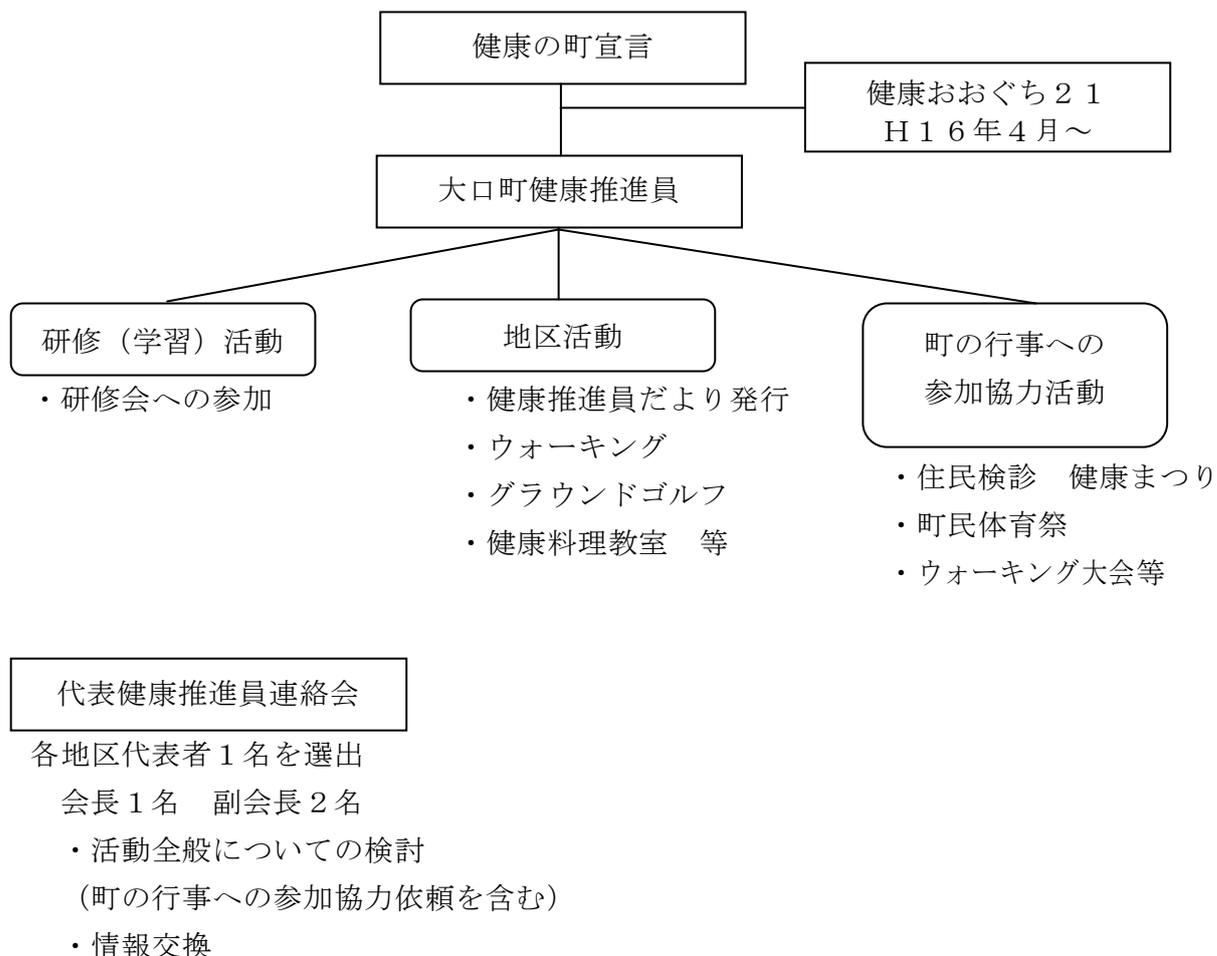
5 健康推進事業

1 健康推進員活動

平成5年12月議会において「大口町健康の町宣言」が議決された。平成7年6月には、健康の町宣言事業の一環として、健康で幸せな生活を送るために、地区住民の健康意識を高め、地区活動を積極的に推進することを目的として、健康推進員制度が設置された。

健康推進員数は概ね100世帯に1名とし、平成22年度からの第6期健康推進員は62名でスタートした。

今年度は、第6期1年目にあたり「自分のからだ（健康）を知ろう！」を目標に、生活習慣病予防を中心とした理解と推進を研修会で学習しながら、「健康おおぐち21」の推進内容を中心に今までの地区活動の継続や区の活動に参加するなど、積極的に健康づくりの活動を展開した。健康推進員は着実に町の健康づくりを支える団体の一つとして大きな力となっている。



(1) 健康推進員研修会実施状況

(単位：人)

実施月日	内 容	講 師	参加人数
4月19日(月)	健康推進員委嘱式 保健センター及び推進員活動について	保健師	59
5月31日(月)	「認知症を学び地域で支えよう」 ～大口町認知症サポーター養成講座～	健康生きがい課職員	49
7月30日(金)	ボランティア養成研修 「ボランティア活動のすすめ」	日本福祉大学 山田先生	48
8月30日(月)	ボランティア養成研修 「生活習慣病を予防するために」	日本福祉大学 広瀬先生	51
9月18日(土)	先進地視察 あいち健康プラザ 「あいち県民健康祭に参加しよう！」	—	45
12月4日(土)	講演会 「健康1番 ピンコロ2番！ ～無駄に死なないぞ！大作戦～	NHKディレクター 北折先生	48
1月31日(月)	健康づくり活動をはじめる前に 運動実技 健康おおぐち21「元気体操」を覚えよう	健康運動指導士 長谷川先生	46

(2) 健康推進員全体活動

(単位：人)

実施月日	内 容	参加人数
11月6日(土)	健康まつりの一環としてウォーキング大会 各地区から広場までウォーキングコースを設定し実施	394
11月6日(土)	大口町ふれあいまつり2010にて 健康まつり(健康おおぐち21推進)	1,300

* 健康おおぐち21推進のための作業部会「健康クラブ笑顔21」へ健康推進員代表として参画し、16年度から3人、17年～22年度は、2人が参加し健康おおぐち21を推進していく原動力となっている。

(3) 代表健康推進員連絡会実施状況

実 施 月 日	主 な 内 容
平成 22 年 5 月 6 日 (木)	22 年度代表健康推進員連絡会について 22 年度健康推進員活動交付金について 情報交換
6 月 9 日 (水)	22 年度代表健康推進員連絡会役員選出 住民(結核)検診及びがん検診・特定健診について 地区活動の情報交換
8 月 26 日(木)	住民(結核)検診結果について ウォーキング大会について 研修会について
10 月 1 日(金)	研修会について ウォーキング大会について (参加記念品等) ふれあいまつり(健康まつり)について
10 月 21 日(木)	ウォーキング大会について ふれあいまつり(健康まつり)について (実施内容の確認と役割分担) 研修会・講演会について
11 月 22 日(月)	健康まつり・ウォーキング大会について (反省及び意見・感想) 健康講演会について 中間報告書の提出について
平成 23 年 1 月 20 日(木)	研修会(健康講演会)について(感想等) がん検診受診率向上に向けて(町のがん検診の現状を報告) 今年度の反省と次年度計画について
3 月 17 日(木)	22 年度健康推進活動実績報告について 22 年度の反省と次年度計画について 研修会、その他情報交換について

(4) 地区自主活動の状況

地 区	活 動 状 況
秋 田	<ul style="list-style-type: none"> ・太極拳 (毎月第2・4金曜日) (4月～) 毎回 20人 ・「健康講座」秋田さわやかクラブと協賛(5月) 50人 (お口の体操 ふりふりぐっば) ・秋季グラウンドゴルフ大会 (9月) 79人 *グラウンドゴルフ協会協力 ・大口町ウォーキング大会 (11月) 62人 ・春季グラウンドゴルフ大会 (3月) 71人 *グラウンドゴルフ協会協力 ・活動内容の検討と打ち合わせ (随時)
豊 田	<ul style="list-style-type: none"> ・しなやかお達者の会参加 (月2回) 毎回 2人 ・早朝ラジオ体操と元気体操 子ども会と合同(7/21~31) 各約 150人 ・豊田区民盆踊り ・大口町ウォーキング大会 (11月) 35人 ・ヨガ教室 (2月) 24人 ・活動内容の検討と打ち合わせ (随時)
大屋敷	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容の検討と打ち合わせ (年6回) 推進員 6人 ・ゴキブリ団子作り(6月) 21人 ・盆踊り 手伝い ・大口町ウォーキング大会 (11月) 36人
外 坪	<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドゴルフ練習 (毎月2回) 毎回 30人 ・親善グラウンドゴルフ大会 (4月) 48人 ・区老人クラブの集いとグラウンドゴルフ大会(5月) 55人 ・盆踊りの練習 (4回) 延 300人 ・地区盆踊り大会協賛 (8月) ・地域ふれあいバスウォーキング大会 44人 ・大口町ウォーキング大会 (11月) 42人 ・グラウンドゴルフ大会 (3月) 50人
河 北	<ul style="list-style-type: none"> ・ナイトウォーキング (月2回) ・尾張富士ウォーキング(5月) 毎回約 12人 ・国際交流会参加 (アートバルーン作成) 10人 ・腰痛体操教室 (7月) 100人 ・大口町ウォーキング大会 (11月) 39人 ・花もち飾りをつくろう 67人 ・新聞紙でブローチ作り 22人 ・毎月連絡会実施
余 野	<ul style="list-style-type: none"> ・健康推進員定例会 (活動内容の検討と反省) (毎月1回) 毎回 10~18人 ・健康リズム体操 (月2回) 66人 ・グラウンドゴルフ大会 (5月) 47人 ・豊川バスウォーキング (7月) 11人 ・余野夏まつり参加 (8月) 49人 ・ツヅラト峠バスウォーキング(10月) 27人 ・大口町ウォーキング大会 (11月) 24人 ・健康料理教室 (11月)

地 区	活 動 状 況	地 区
上小口	<ul style="list-style-type: none"> ・健康体操（寿楽会とタイアップ）（7月） ・グラウンドゴルフ大会（7月） ・盆踊り練習 盆踊り大会 ・普通救命講習とAED講習 ・区歩け歩け大会と区民運動会（11月） ・健康教室（寿楽会と） ・グラウンドゴルフ大会（11月） ・健康推進員定例会（毎月） ・ポケットパークの草取り（年3回） 	35人 70人 50人 25人 110人 30人 毎回10～18人
中小口	<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドゴルフ 毎週月曜日 ・エアロビクス ・中小口・垣田グラウンドゴルフ交流会（7月） ・「生活習慣改善について」（9月） ・健康まつりウォーキング大会（11月） ・堀尾公園ウォーキング大会（12月） ・交歓会（3月） ・年度末グラウンドゴルフ大会（3月） 	毎回約27人 毎回約20人 45人 31人 43人 41人 32人 33人
下小口	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者ふれあいの集い ・下小口盆踊り練習会 ・メタボ予防の「健康料理教室」 ・下小口グラウンドゴルフ大会（10月） ・大口町ウォーキング大会（11月） ・AED救急救命講習会 ・下小口ウォーキング大会 ・定例会（月1回） ・ナイトウォーキング（毎週金曜日） 	150人 25人 56人 45人 10人 66人
垣 田	<ul style="list-style-type: none"> ・垣田グラウンドゴルフ大会（6月） ・ナイトウォーキング（5～8月の木曜日） ・中小口とグラウンドゴルフ交流会（7月） ・大口町ウォーキング大会（11月） ・春のウォーキング大会（犬山城）（3月） ・垣田区グラウンドゴルフ大会（3月） ・健康推進員の打ち合わせ会 	18人 16人 人 28人 10人
さつきヶ丘	<ul style="list-style-type: none"> ・盆踊りで健康づくり（4回） ・健康講演会 ・ラジオ体操（子ども会に協力2回） ・町民体育祭 ・親睦バスウォーキング ・大口町ウォーキング大会（11月） ・歯の健康講演会（11月） ・グラウンドゴルフ講習会（12月・2回） ・グラウンドゴルフ交流試合 ・身体があつたまる料理教室（3月） 	平均28人 46人 40人 19人 28人 平均21人 32人 21人

2 「健康おおぐち21」計画推進

平成15年度に「健康づくりの主役は住民」「健康づくり＝町づくり」と捉え、大口町の健康づくり計画「健康おおぐち21」を住民と町職員が共に考え策定した。

推進7年目の今年度は、19年度に行った中間評価をもとに新たに加わった生活習慣病予防の推進や歯の講演会を健康クラブ笑顔21主催で行うなど、さらに活動を充実させながら、計画を理解し推進する人を増やし、住民と行政が協働で計画を推進している。

(1) 平成22年度「健康おおぐち21」推進実施状況

計画を6分野に分けて推進をする中で、今年度は生活全体へのアプローチとして、分野ごとの推進の他、「健康1番 ピンコロ2番」と題した健康講演会を行った。また、6分野を各1回ずつ6回のコースに仕立てた「笑顔になれる ハッピー・スマッピー健康教室」をNPO主体で実施した。(◎は重点事業)

【生活習慣病予防分野】

◎健康講演会「健康1番 ピンコロ2番」<12/4>

◎笑顔になれる 「ハッピー・スマッピー健康教室」<全6回コース>(H22.7～H23.1)

*健康まつり時「がん予防」啓発

*住民検診時に体脂肪測定の実施

*広報誌での啓発(5回)

「体重測るだけ健康法」「肥満予防と血糖値」「乳がん」「子宮がん」「胃・大腸・肺がん」

【運動・生活活動分野】

*住民検診時にスロトレの啓発

*元気体操の普及(南小・町民体育祭・桜まつり)

【食生活分野】

*大口町産「旬の野菜情報」(効用とレシピ)の発行<年4回>

*「かんたん!野菜クッキング」の実施<6/23>

*子どもと文化の森との協働事業<11/16>

*広報誌での啓発(2回)

腹八分目で適量を知ろう「回転寿司のカロリー」「油の適量」

【こころの分野】

*標語を健康文化センタートイレに掲示

*自殺予防キャンペーン<9/14・3/19>

【たばこ・アルコール分野】

*広報誌での啓発(1回) 「たばこの害」

【歯の健康分野】

*住民検診時にお口の体操を実施

*広報誌での啓発(2回) 「歯周病予防」「8020表彰者紹介」

【その他】

*広報無線によるワンポイントアドバイス

*私の健康・健康川柳・俳句の活用(広報掲載)

(2) 「健康おおぐち21」計画推進の経過

<計画推進に向けての会議等実施状況>

大口町健康づくり推進協議会	1回
健康クラブ笑顔21(定例会・臨時)	17回
食生活部会	10回
運動・生活活動部会	4回
こころ部会	1回
たばこ・アルコール部会	1回
歯部会	4回
健康まつり連絡会	4回
ふれあいまつり実行委員会	1回
ハッピー・スマッピー健康教室事前打ち合わせ	7回

(3) 健康おおぐち21推進イベント

ア 目的

健康おおぐち21の推進として、より多くの人へ計画の周知と健康づくりのきっかけとなるよう今年度も、ふれあいまつり2010の中で「健康まつり」として実施。

イ 日時

平成22年11月6日(土) 午前10時～午後3時

ウ 場所

健康文化センター 1階～5階

エ スタッフ

健康生きがい課・戸籍保険課・健康クラブ笑顔21・健康推進員・高齢者福祉協力員・脱メタボおじさまの会・脱メタボさくらの会・太極拳協会・断酒会・国保連合会在宅保健師・歯科衛生士会・薬剤師会・細胞検査士会

オ 内容及び参加者数

全体の参加者 約1,300人

	内 容	参加者数
周知	スタンプラリー(ゴールした人)	1,208人
	インフルエンザ予防手洗いコーナー	328人
運動・生活活動		天使の羽を動かそう 5階までのぼったら…
		190人
		370人
	見学・無料体験(5階トレーニングセンター) リンパマッサージ、ルーシー・ダットン (5階トレーニングセンター)	326人

	内 容	参加者数
食生活	旬の野菜料理実演&試食 脂肪の多い食事並べ替え おでんの塩分とカロリー 栄養相談	225 人 262 人 240 人 30 人
たばこ ・ アルコール	クスリの相談 呼気中CO濃度測定 断酒コーナー	76 人 118 人 156 人
歯	お口の体操 カムカムチェック 8020 表彰者の横顔パネル掲示	198 人 122 人
生活習慣 病予防 ・ こころ	体組成・体脂肪測定 血管年齢チェック 脱メタボ活動紹介 生活習慣チェック 子宮頸がんワクチンPR 目で見るとがんコーナー がん予防のPRコーナー 乳がん自己検診法 大腸がん検診受付 乳がん検診受付 整膚 うさぎちゃん紙芝居 ハッピーセロトニンコーナー お肌チェック	146 人 141 人 88 人 119 人 38 人 219 人 167 人 144 人 5 人 1 人 108 人 59 人 39 人 213 人



6 感染症予防事業

イ 予防接種会場

予防接種の種類		接種方法	接種会場
一類疾病	三種混合 (百日せき・ジフテリア・破傷風)	個別接種	大口町・扶桑町 江南市・犬山市の 委託医療機関 (予約制)
	二種混合 (ジフテリア・破傷風)		
	MR (麻しん・風しん混合) ・麻しん・風しん		
	日本脳炎		
二類疾病	インフルエンザ		
任意	ヒブ		
	小児用肺炎球菌		
	子宮頸がん		
一類疾病	B C G	集団接種	保健センター
	ポリオ(急性灰白髄炎)		

(2) 実施状況

(単位：人・%)

一類疾病		22年度			21年度	20年度	19年度
		対象者	被接種者	接種率	接種率	接種率	接種率
三種混合	第1期初回1回目	255	217	85.1	85.9	91.3	91.9
	第1期初回2回目	254	222	87.4	89.3	85.8	92.5
	第1期初回3回目	253	214	84.6	86.7	86.8	90.9
	第1期追加	286	272	95.1	77.8	73.5	77.2
二種混合	第2期	259	230	88.8	92.9	85.1	86.0
麻しん・風しん混合 (MR)	第1期	238	231	97.1	98.8	96.7	87.9
	第2期	245	235	95.9	92.7	95.0	92.1
	第3期	254	234	92.1	90.9	93.8	93.8
	第4期	236	208	88.1	89.0	87.7	87.7
日本脳炎	第1期初回1回目 接種者	—	522	—	149	159	77
	第1期初回2回目 接種者	—	512	—	147	160	78
	第1期追加 接種者	—	219	—	143	99	32
	第2期 接種者	—	323	—	93	17	10
B C G		235	235	100	99.6	99.2	100
ポリオ	1回目	249	215	86.3	90.9	92.1	91.1
	2回目	276	243	88.0	90.6	85.8	87.2

二類疾病	22年度			21年度	20年度	19年度
	対象者	被接種者	接種率	接種率	接種率	接種率
高齢者インフルエンザ(65才以上) [接種者]	4,320	2,881	66.7	63.4 [2,676]	66.7 [2,724]	66.8 [2,648]

*MR第3期・第4期については、麻しん排除計画による平成20年度～24年度までの5年間の時限措置である。

(3) 日本脳炎

日本脳炎予防接種は、平成17年5月30日から積極的勧奨が差し控えられていたが、平成22年4月1日から、3歳に対する初回接種の積極的勧奨が再開されたため、対象者には個別通知にて勧奨した。積極的勧奨者以外の接種希望者は、同意書に署名の上、定期接種として接種できる。さらに、平成22年8月27日付けで予防接種実施規則の一部改正における省令により、これまで使用されてきたマウス脳による製法の日本脳炎ワクチンは、使用不可となり、乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンのみの使用となる。このワクチンは、第2期の使用ワクチンとしても位置付けられ、第2期接種が再開となった。また、平成17年からの差し控えにより、平成22年3月31日までに第1期末接種の者で、9歳以上13歳未満の者を接種対象とする特例が出され、特例及び第2期の接種希望者も同意書に署名の上、定期接種として接種が可能となった。対象者には広報、小学校全学年への通知等で周知に努めた。

(4) 麻しん

平成22年における麻しん患者の発生状況は、全国で457例（愛知県は32例）であり、100万人当たりの報告数は3.6（愛知県は4.3）と、WHOが定義する麻しん排除の判断基準のひとつである「1年間の報告数が100万当たり1未満」に達していない状況である。麻しん根絶を目標に、国は麻しん排除達成における指標を接種率95%としているが、4月から12月までの全国平均の接種率は、第2期70.9%、第3期68.9%、第4期58.8%と95%には届いていない。本町では、随時広報や保育園にポスター掲示等の周知や勧奨通知(2月)にて接種率の向上に努めた結果、例年並みの接種率となった。

(5) 新型インフルエンザ

今年度も新型インフルエンザ(A/H1N1)は継続され、平成22年10月1日から新型インフルエンザワクチン接種事業を開始した。今年度のワクチンは「1価ワクチン」と、季節性インフルエンザ・新型インフルエンザ(A/H1N1)の両方に対するインフルエンザHAワクチン「3価ワクチン」となり、主は「3価ワクチン」となった。また、対象者に優先順位はなく、希望者は誰でも接種可能で、町民税非課税世帯・生活保護世帯の方には、接種費用の助成(1回目3,600円、2回目2,550円)を行った。今年度の流行状況は、季節性インフルエンザ並みで経過した。町民には、広報・広報無線・ホームページ等にて周知に努めた。

今般の新型インフルエンザ(A/H1N1)は、ウイルス動向や流行予測等のサーベイランス

や必要調査等を継続して行ったが、季節性インフルエンザと異なる大きな流行等の特別な事情は生じなかった。そのため、新型インフルエンザ等感染症と認められなくなり、通常の季節性インフルエンザ対策に移行し、平成 23 年 3 月 31 日をもって新型インフルエンザ（A/H1N1）ワクチン接種事業は終了となった。今般の新型インフルエンザ（A/H1N1）は、平成 23 年 4 月 1 日以降、「インフルエンザ（H1N1）2009」という名称を使用することになった。

*町内 9 医療機関での新型インフルエンザ被接種者数 (人)

区 分	3 価ワクチン		
	1 回目	2 回目	合計
妊婦	30	0	30
15 歳未満	2,913	2,159	5,072
15～64 歳	4,950	34	4,984
65 歳以上	3,719	21	3,740
合計	11,612	2,214	13,826

(6) 任意予防接種

平成 22 年 11 月 26 日から子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進臨時特例基金事業が適用され、本町でも平成 23 年 1 月 4 日から、子宮頸がん予防ワクチン・ヒブワクチン・小児用肺炎球菌ワクチンの接種費用の一部助成を開始した。対象者に予診票を個別通知し、接種希望者は委託医療機関にて一部負担金を支払い接種可能となる。

しかし、ヒブワクチン及び小児用肺炎球菌ワクチンの接種について、接種後の死亡例が複数報告されたことにより、平成 23 年 3 月 4 日から一時見合わせとなったが、専門家の会議で、安全性上の懸念はないと判断され、平成 23 年 4 月 1 日から接種再開となる。

子宮頸がんのワクチン供給不足により、平成 23 年 3 月からワクチン接種が困難な状況になった。平成 23 年 7 月にワクチンが輸入されるまでは 2 回・3 回接種者を優先とし、初回接種は見送られる事態となった。その為、平成 23 年 3 月 31 日までに初回接種できなかった高校 1 年生相当の年齢の女子に対し、当分の間、接種対象者とする通知が国より出された。

ワクチン名	対象者	自己負担額	町負担額	延べ接種回数	接種者数
子宮頸がん	中学 1 年～高校 1 年生に相当する年齢の女子	1 回 5,300 円	1 回 10,639 円	247 回 (※1 うち 16 回)	134 人
ヒブ	2 か月齢以上 5 歳未満	1 回 2,900 円	1 回 5,952 円	208 回 (※1 うち 3 回)	178 人
小児用肺炎球菌	2 か月齢以上 5 歳未満	1 回 3,700 円	1 回 7,567 円	235 回 (※1 うち 3 回)	205 人

※1 町民税非課税世帯及び生活保護世帯の方低所得者は全額助成

保健活動のまとめ

平成23年6月発行

編 集 大 口 町 健 康 福 祉 部 健 康 生 き が い 課
(大 口 町 保 健 セ ン タ ー)
丹 羽 郡 大 口 町 伝 右 一 丁 目 35 番 地
電 話 0587 (94) 0051
F A X 0587 (94) 0052

発 行 大 口 町